Pioneer sound.vision.soul

DVD 5.1ch サラウンドシステム

HTZ-565DV

DVDビデオのリージョン番号

DVDプレーヤーとDVDビデオディスクには発売地域ごとにリージョンNo.(地域番号)が設けられています。海外で購入したDVDビデオディスクは、リージョンNo.の違いにより再生できない場合があります。本機のリージョンNo.は「2」です。

再生できるDVDビデオディスクのリージョン表示の例：

など

DVDレコーダーをお持ちのお客様へ

※DVDレコーダーのビデオモードで記録したDVD-R/-RWディスクを本機で再生するときは、
ファイナライズ(録画終了処理)してください。

インターネットによるお客様登録のお願い

http://pioneer.jp/support/

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。弊社では、お買い上げいただいたお客様に「お客様登録」をお願いしています。上記アドレスからご登録いただくと、ご使用の製品についての重要なお知らせなどをお届けいたします。なお、上記アドレスは、困ったときのよくある質問や各種お問い合わせ先の案内、カタログや取扱説明書の閲覧など、お客様のお役に立てるサービスの提供を目的としたページです。

取扱説明書

安全上のご注意

●安全にお使いいただくために、必ずお守りください。
●ご使用の前にこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

この取扱説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△ 記号は注意(警告を含む)しなければならない内容であることを示しています。
図の中に具体的な注意内容(左図の場合は感電注意)が描かれています。

⃠ 記号は禁止(やってはいけないこと)を示しています。
図の中や近くに具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。

● 記号は行動を強制したり指示する内容を示しています。
図の中に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け)が描かれています。

⚠ 警告

異常時の処置

- 万一煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。

- 万一内部に水や異物等が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

- 万一本機を落としたり、カバーを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

設置

- 電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着している場合は、電源プラグを抜いてから乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

- 電源コードの上に重い物をのせたり、コードが本機の下敷きにならないようにしてください。また、電源コードが引っ張られないようにしてください。コードが傷ついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。

- 放熱をよくするため他の機器、壁等から間隔をとり、またラックに入れる時はすき間をあけてください。また、次のような使い方で通風孔をふさがないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

→あおむけや横倒し、逆さまにする。
→押し入れなど、風通しの悪い狭いところに押し込む。
→じゅうたんやふとんの上に置く。
→テーブルクロスなどをかける。

- **着脱式の電源コード(インレットタイプ)が付属している場合のご注意:**
  付属の電源コードはこの機器のみで使用することを目的とした専用部品です。他の電気製品ではご使用になれません。他の電気製品で使用した場合、発熱により火災・感電の原因となることがあります。また電源コードは本製品に付属のもの以外は使用しないでください。他の電源コードを使用した場合、この機器の本来の性能が出ないことや、電流容量不足による発熱から火災・感電の原因となることがあります。

使用環境

- この機器に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。

- 風呂場、シャワー室等では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

- 表示された電源電圧(交流100ボルト50 Hz/60 Hz)以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。

- この機器を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。火災の原因となります。

使用方法

- 本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器または小さな金属物をおかないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

- ぬれた手で(電源)プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

- 本機の通風孔などから、内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

- 本機のカバーを外したり、改造したりしないでください。内部には電圧の高い部分があり、火災・感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。

- 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して火災・感電の原因となります。コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)、販売店に交換をご依頼ください。

- 雷が鳴り出したらアンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

⚠ 注意

設置

- 電源プラグは、コンセントに根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと発熱したり、ほこりが付着して火災の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触れると感電することがあります。

- 電源プラグは、根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントに接続しないでください。発熱して火災の原因となることがあります。販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。

- ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

- 本機を調理台や加湿器のそばなど油煙、湿気あるいはほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

- テレビ、オーディオ機器、スピーカー等に機器を接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。

異常時の処置

- 本機の上にテレビを置かないでください。放熱や通風が妨げられて、火災や故障の原因となることがあります。(取扱説明書でテレビの設置を認めている機器は除きます。)

- 電源プラグを抜く時は、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

- 電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

- 移動させる場合は、電源スイッチを切り必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してから、行ってください。コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。

- 本機の上にテレビやオーディオ機器を載せたまま移動しないでください。倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。重い場合は、持ち運びは2人以上で行ってください。

- 窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。火災の原因となることがあります。

使用方法

- ディスクを使用する機器の場合、ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクは使用しないでください。ディスクは機器内で高速回転しますので、飛び散ってけがの原因となることがあります。

- レーザーを使用している機器では、レーザー光源をのぞきこまないでください。レーザー光が目に当たると視力障害を起こすことがあります。

- 長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

- 本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様はご注意ください。倒れたり、こわれたりしてけがの原因になることがあります。

- お子様がカセットテープ、ディスク挿入口に、手を入れないようにご注意ください。けがの原因になることがあります。

- ヘッドホンをご使用になる時は、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

- 旅行などで長期間ご使用にならない時は、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

電池

- 指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

- 電池を機器内に挿入する場合、極性表示(プラス(＋)マイナス(ー)の向き)に注意し、表示どおりに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

- 長時間使用しない時は、電池を取り出しておいてください。電池から液がもれて火災、けが、周囲を汚損する原因となることがあります。もし液がもれた場合は、電池ケースについた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。また万一、もれた液が身体についた時は、水でよく洗い流してください。

- 電池は加熱したり分解したり、火や水の中に入れないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

保守・点検

- 5年に一度くらいは内部の掃除を販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うとより効果的です。なお掃除費用については販売店などにご相談ください。

- お手入れの際は安全のために電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

● 電源の供給を完全に停止するためには、電源プラグ（遮断装置）を抜く必要があります。万一の事故に備え、本機を電源コンセントの近くに設置し、電源プラグ（遮断装置）に容易に手が届くように設置してください。

● 機器本体のSTANDBY/ONボタンで電源を切っても、電源の供給は停止しません。電源の供給を完全に停止するためには、電源プラグ（遮断装置）を抜く必要があります。旅行などで長期間、この製品をご使用にならないときには安全のため必ず電源プラグ（遮断装置）をコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

⚠ 注意

● 表示部が消えていても電源の供給は停止しません。電源の供給を完全に停止するためには、電源プラグ（遮断装置）を抜く必要があります。旅行などで長期間、この製品をご使用にならないときには安全のため必ず電源プラグ（遮断装置）をコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

禁止

● 付属の電源コードはこの機器のみで使用することを目的とした専用部品です。他の電気製品ではご使用になれません。他の電気製品で使用した場合、発熱により火災・感電の原因となることがあります。また電源コードは本製品に付属のもの以外は使用しないでください。他の電源コードを使用した場合、この機器の本来の性能が出ないことや、電流容量不足による発熱から火災・感電の原因となることがあります。

本機の放熱について

● 本機を設置する場合には、壁から１０ｃｍ以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して設置してください。ラックなどに入れるときには、本機の天面から１０ｃｍ以上、背面から１０ｃｍ以上、側面から１０ｃｍ以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

もくじ

第 1 章：
各部のなまえ

本体

1 ⏻ STANDBY/ON ボタン
電源をオン / オフ（スタンバイモード）します。

2 PLAY LIST ボタン
お好みのファイルをプレイリストに登録します (28 ページ)。

3 ⏏ OPEN/CLOSE ボタン
ディスクテーブルを開閉します。

4 ►/II DVD/CD ボタン
ディスクを再生 / 一時停止します。

5 ■ ボタン
ディスクや USB メモリーの再生を停止します。

6 ►/II USB ボタン
USB メモリーを再生 / 一時停止します。

7 VOLUME ボタン
音量を調節します。

8 USB 端子
USB メモリーを接続します (33 ページ)。

9 ヘッドホン端子
市販のヘッドホンを接続します。インピーダンス 16 Ω ～ 50 Ω（推奨 32 Ω）、直径 3.5Φ ステレオミニプラグ付のヘッドホンをお使いください。

ヘッドホンをつなぐと、スピーカーから音は出ません。

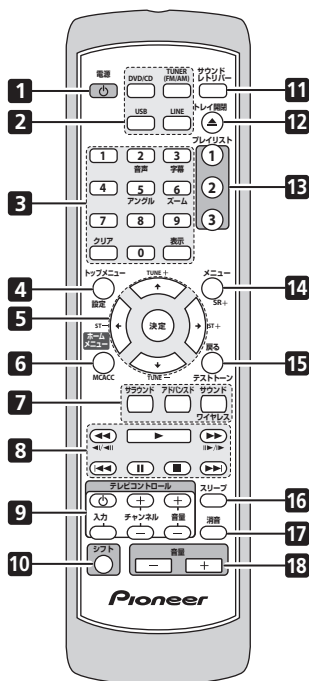
10 POWER インジケーター
電源がオンのときに点灯します（ディマー機能、スリープタイマーが設定されているときを除く）。

11 リモコン受光部[1]
約 7 m 左右 30˚ 以内の距離から、ここにリモコンを向けて操作します。

12 表示窓
詳しくは「表示」(12 ページ) をご覧ください。

メモ

1 直射日光や蛍光灯の強い光が直接リモコン受光部に当たると、リモコン操作できないことがあります。そのようなときは、設置場所を変えるか、蛍光灯から離してください。

リモコン

1　⏻ 電源ボタン

電源をオン / オフ（スタンバイモード）します。

2　入力切換ボタン

再生したい入力（DVD/CD、TUNER(FM/AM)、USB、LINE）を選びます。

3　数字 / クリア / 表示 /DVD 操作ボタン

数字ボタン

チューナーのステーション（記憶番号）を入力したり、CD や DVD などのトラックやチャプター番号などを入力します。

クリアボタン

プログラム再生で設定した内容を取り消します。

表示ボタン

ディスク情報の表示 / 切り換えをします (32 ページ)。

シフト + 音声ボタン

音声を切り換えます (32 ページ)。

シフト + 字幕ボタン

字幕を切り換えます (31 ページ)。

シフト + アングルボタン

マルチアングル DVD を再生中にアングルを切り換えます (32 ページ)。

シフト + ズームボタン

画像を拡大します (32 ページ)。

4　トップメニューボタン

DVD の最上層のメニュー画面を表示します。**メニューボタン**と同じ働きをすることがあります (16 ページ)。

シフト+設定ボタン

各種設定を行います（17、36、49 ページ)。

5　⬆/⬇/⬅/➡/ 決定ボタン

項目の選択や変更、または DVD などのメニューや設定画面でカーソルを上下左右に移動し、決定します。

TUNE ＋ / －ボタン

ラジオの周波数を合わせます (17 ページ)。

ST ＋ / －ボタン

記憶したラジオ放送局を呼び出します (17 ページ)。

6　ホームメニューボタン

ホームメニュー画面を表示したり、操作 / 設定の途中で画面をオフにします。

シフト+ MCACC ボタン

サラウンドの自動設定を行います (13 ページ)。

7　サラウンドボタン

サラウンドモードの設定や調整を行います (22 ～ 24 ページ)。

アドバンスドボタン

パイオニア独自のサラウンドモードを選択します (23 ページ)。

サウンドボタン

各種音質の設定や調整を行います。

シフト+ワイヤレスボタン

ワイヤレスモードを切り換えるときに使用します (21 ページ)。

8 再生操作ボタン

各種再生操作の説明について、詳しくは「ディスクの再生」(15 ページ)、「いろいろなディスクを再生する」(26 ページ)、「USB メモリーの再生」(33 ページ)をご覧ください。

9 テレビコントロールボタン

パイオニアのプラズマテレビを操作します(一部操作できないモデルもあります)。

10 シフトボタン

緑字のボタンを操作するときに押します。

11 サウンドレトリバーボタン

圧縮音声を高音質化します (25 ページ)。

12 ▲ トレイ開閉ボタン

ディスクテーブルを開閉します。

13 プレイリストボタン

お好みのファイルをプレイリストに登録したり、プレイリスト再生をします。

14 メニューボタン

メニュー画面またはナビゲーター画面を表示します。

シフト+ SR+ ボタン

接続したプラズマテレビとの連動設定を行います (47 ページ)。

15 戻るボタン

メニュー画面で 1 つ前の画面 / 項目に戻ります。

シフト+テストトーンボタン

スピーカーの音量バランスを調整するためにテストトーンを出力します (36 ページ)。

16 スリープボタン

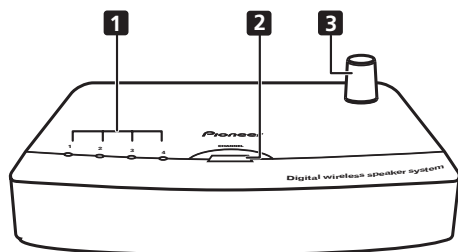
スリープタイマーを設定します (49 ページ)。

17 消音ボタン

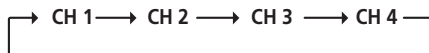
音を一時的に消します(もう一度押すと元の音量に戻ります)。

18 音量ボタン

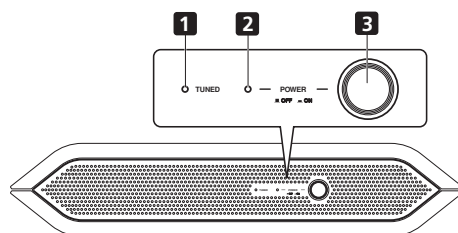
音量を調節します。

トランスミッター

1　チャンネルインジケーター
2 のチャンネル選択ボタンによって選択された周波数チャンネルが点灯します。

2　チャンネル選択ボタン
ワイヤレススピーカーへ送信する信号を 4 つの周波数チャンネルから選択します。ワイヤレススピーカーの受信状態が良くないときは、周波数チャンネルを変えることで受信状態が良くなることがあります。押すたびに以下のように切り換わります。

→ CH 1 → CH 2 → CH 3 → CH 4 ─┐（CH 1 に戻る）

3　アンテナ
ワイヤレススピーカーへ音声信号を送信します。

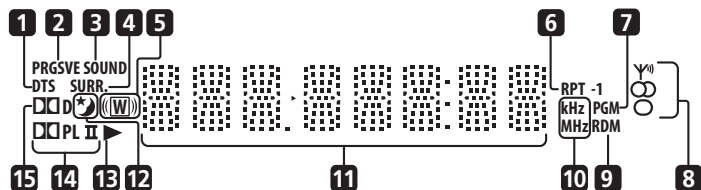
ワイヤレススピーカー[1]

上面部

1　TUNED インジケーター
トランスミッターからの信号を受信しているときに点灯します。

2　POWER インジケーター
ワイヤレススピーカーの電源をオンにしているときに点灯します。

3　電源ボタン
ワイヤレススピーカーの電源をオン / オフします。

メモ
1 ワイヤレススピーカーのアンテナは内蔵されています。

表示

1 DTS
DTS 信号を再生しているときに点灯します (19 ページ)。

2 PRGSVE
映像出力方式でプログレッシブが選択されているときに点灯します (39 ページ)。

3 SOUND
サウンドレトリバー機能が有効なときに点灯します (25 ページ)。

4 SURR.
アドバンスドサラウンドモードを選択しているときに点灯します (23 ページ)。

5 ワイヤレスインジケーター
ワイヤレスモードが「NORMAL」「WIDE」「LEFT」「RIGHT」のいずれかに設定されているときに点灯します。「STEREO」に設定されているときは点滅し、「OFF」に設定されているときは消灯します (21 ページ)。

6 RPT / RPT-1
タイトル / ディスクリピート再生時は **RPT** が、チャプター / トラックリピート時は **RPT-1** が点灯します (29 ページ)。

7 PGM
プレイリスト (28 ページ) またはプログラム (30 ページ) 再生時に点灯します。

8 ラジオチューナーインジケーター

FM/AM 放送受信時に点灯します。

FM 放送でステレオ受信しているときに点灯します。

FM 放送の受信設定をモノラルに設定しているときに点灯します。

9 RDM
ランダム再生時に点灯します (30 ページ)。

10 kHz / MHz
AM 放送局の周波数が表示されているときは **kHz** が、FM 放送の周波数が表示されているときは **MHz** が点灯します。

11 キャラクター表示部

12
スリープタイマー設定時に点灯します (49 ページ)。

13 ▶
ディスクや USB メモリーを再生しているときに点灯します。

14 DD PL II
ドルビープロロジック II 処理が行われているときに点灯します (22 ページ)。

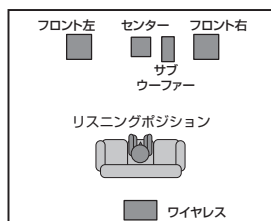
15 DD D
ドルビーデジタル信号を再生しているときに点灯します (22 ページ)。

第 2 章：
基本設定と基本操作

ホームシアターについて

重要

- 電源コードをコンセントに差し込んだときなどは、表示部にいろいろな表示を自動的に行います。詳しくは「デモ表示設定」（50 ページ）をご覧ください。

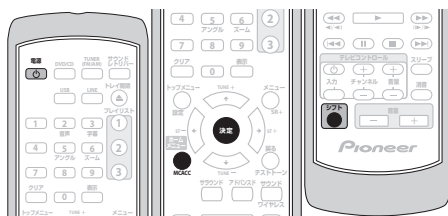
以下は 5.1 ch マルチチャンネル再生に適した標準的なスピーカー配置です。サラウンド再生をお楽しみいただくために、別添のシステムセットアップガイドおよび「ワイヤレススピーカーのいろいろな設置」（20 ページ）をご覧になり、スピーカーを配置、接続してください。

スピーカーの配置、接続後は「ワイヤレスモードを選択する」（21 ページ）でワイヤレスモードを選んでください。そのあと「サラウンドの自動設定（MCACC）」（下記）をご覧になり、サラウンドの設定を行ってください。

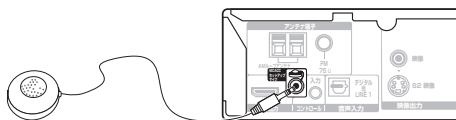
サラウンドの自動設定（MCACC）

本機のサラウンドの自動設定 (MCACC) では、従来の手動設定では難しかった各スピーカーまでの距離や出力レベル、音色の統一などの設定を自動で高精度に測定、調整します。スピーカーから出力されるテストトーンを付属のセットアップ用マイクで測定、解析し、お部屋に最も適したサラウンドの設定が自動で行われます。[1]

重要

- テストトーンは大きな音で出力されます。近隣住宅や小さなお子様への配慮をお願いします。測定の途中で音量を下げることもできますが、正しく設定されない場合があります。
- サラウンドの自動設定 (MCACC) 中はマイクとスピーカーを動かさないでください。

メモ

1 • サラウンドの自動設定 (MCACC) の内容は電源をオフにしても記憶しています。お部屋の模様替えをしたり、スピーカーの配置を変更したときはもう一度サラウンドの自動設定 (MCACC) を行ってください。
• サラウンドの自動設定（MCACC）を行うと、マニュアルで微調整した各スピーカーまでの距離、スピーカー出力レベルの内容もすべてリセットされます。
• すべての測定／解析にかかる時間は、2 分～ 4 分程度です。

1　MCACC セットアップ用マイクの接続を確認します（システムセットアップガイド参照）

2　MCACC セットアップ用マイクをリスニングポジションに配置します
マイクは耳の高さになるよう三脚や台などを使って水平になるように設置します。

スピーカーとマイクの間には障害物がない状態にします。

3　⏻ 電源ボタンを押して電源をオンにします
TUNER 入力以外の入力に切り換えておいてください。

4　シフト＋ MCACC ボタンを押します
シフト＋ MCACC ボタンを押したあとは静かにしてください。自動的に音量が上がりテストトーンが出力され、自動設定が始まります。
測定中はリスニングポジションから離れて、各スピーカーの外側からリモコンで操作を行ってください。

- 測定の途中で**シフト＋ MCACC ボタン**を押すと設定を中止することができます。
- お部屋の騒音レベルが大きいときは **NOISY** が表示部に 5 秒間点滅します。[1] そのあと、**RETRY** と表示されるので、静かにしてから**決定ボタン**を押してください。設定を中止してお部屋の騒音を調べるときは、**シフト＋ MCACC ボタン**を押して始めからやり直してください。
- MCACC セットアップ用マイクまたはスピーカーが接続されていないときは**ERR MIC** または **ERR SP** と表示されます。そのあと、**RETRY** と表示されるので、接続を確認してから**決定ボタン**を押してください。[2]
自動設定が終了すると音量が自動で下がり、表示部に **COMPLETE**[3] と表示されます。アコースティック EQ が自動でオンになります。[4]

オンスクリーンディスプレイ（OSD）を操作する

DVD/CD または USB 入力のときは、各種設定やメニュー画面の操作をテレビ画面で行うことができます。どのような場合でも基本的な操作方法は同じで、⬆/⬇/⬅/➡ で項目を選択し、**決定ボタン**で決定します。[5]

 重要

- 本取扱説明書で「選ぶ」と書かれている箇所は、⬆/⬇/⬅/➡ で項目を選択し、**決定ボタン**を押すことを意味します。

ボタン	機能
ホームメニュー	ホームメニュー画面を表示 / 終了します。
⬆⬇⬅➡	メニュー項目の選択 / 変更を行います。
決定	選択した項目を決定します。

メモ

1 • お部屋の環境がサラウンドの自動設定 (MCACC) に適していないとき（騒音が多いとき、壁の反響が少ないとき、マイクとスピーカーの間に障害物があるときなど）は正しく設定されないことがあります。エアコン、冷蔵庫、扇風機、換気扇などの家電が影響することがあるので、必要に応じて設定中は電源を切ってください。
• 付属のMCACC セットアップ用マイクを TV モニターの近くに置いて自動設定を行わないでください。また、一部の古いテレビをご使用の場合、マイクに悪影響を与えることがあります。この場合は自動設定の間、テレビの電源を切ってください。
2 正しく設定が続けられないときは、**シフト＋MCACC ボタン**を押して自動設定を中止し、電源を切ってからエラーメッセージに従って接続を正しくやり直し、再度サラウンドの自動設定 (MCACC) を行ってください。
3 **COMPLETE** と表示されないまま自動設定が中断されたときは、スピーカー、マイクの接続を確認し、始めからやり直してください。
4「周波数特性の補正」(25 ページ) をご覧になると、アコースティック EQ のオンとオフを切り換えることができます。
5 5 分間何も操作がないとスクリーンセーバー機能が働きます。

ボタン	機能
戻る	変更を決定せずに 1 つ前の項目に戻ります。

チェック

- オンスクリーンディスプレイ（OSD）の下部にその画面で使用するボタンのガイドが表示されます。

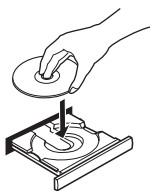
ディスクの再生

DVD、CD、ビデオ CD、DivX、WMA/MP3、MPEG-4 AAC、JPEG ファイルの基本操作は以下のとおりです。より詳細な操作については「いろいろなディスクを再生する」(26 ページ) をご覧ください。

1　本機の電源が入っていないときは電源をオンにします

映像が記録されたディスクを再生するときはテレビの電源もオンにして、映像入力を本機に合わせます。

2　▲ OPEN/CLOSE ボタン（またはリモコンの ▲ トレイ開閉ボタン）を押してディスクをセットします

ディスクのラベル面を上にしてディスクテーブルのガイドに合わせてセットします (DualDisc の場合は再生したい面を下にしてセットします)。

3　►/II DVD/CD ボタン（またはリモコンの ► ボタン）を押して再生を始めます。

DVD またはビデオ CD の場合はメニュー画面が表示されることがあります。この場合「DVD のメニュー画面を操作する」(16 ページ) または「ビデオ CD のメニュー画面を操作する（PBC 再生)」(16 ページ) をご覧ください。

JPEG 画像が記録されたディスクを再生するとスライドショー再生が始まります。詳しくは「JPEG をスライドショー再生する」(26 ページ) をご覧ください。

- DivX と WMA/MP3、MPEG-4 AAC または JPEG が同じディスクに記録されているときは、まずはじめにどのフォーマットを再生するかテレビ画面で選択します。

4　音量を調節します

VOLUME ボタンで調節します。

再生の基本操作

本機のリモコンで行う基本的な再生操作は以下のとおりです。[1] より詳細な操作については「いろいろなディスクを再生する」(26 ページ) をご覧ください。

ボタン	機能
►	再生を開始します。 • 表示部に **RESUME** または **LAST MEM** と表示されたときは前回停止した場所から再生を再開します。詳しくは「止めたところから再生する」（下記）をご覧ください。
II	一時停止 / 一時停止解除します。
■	再生を停止します。また、表示部に **RESUME** と表示されているときはリジューム機能を解除します。
◄◄	早戻し再生します。
►►	早送り再生します。

メモ

1 ディスクの種類によっては一部操作ができないことがあります。

ボタン	機能
⏮	再生中のトラック / チャプター / ファイルの頭に戻ります。押した回数だけ前のトラック / チャプター / ファイルにスキップします。
⏭	次のトラック / チャプター / ファイルにスキップします。
数字ボタン	タイトル / チャプター / トラックを指定して再生します。**決定ボタン**を押して再生します。 • ディスク停止中はタイトル指定（DVD）またはトラック指定（CD、ビデオ CD）となります。 • ディスク再生中はタイトル指定（VR モードの DVD-R/-RW）、チャプター指定（DVD ビデオ）またはトラック指定（CD、ビデオ CD）となります。

止めたところから再生する

DVD ディスク、ビデオ CD、CD、DivX ファイルの再生を ■ **ボタン**を押して停止したとき、表示部に **RESUME** と表示されます（リジューム機能）。このとき、次回は停止したところから再生を再開することができます。また、DVD（VR モードの DVD-R/-RW ディスクを除く）やビデオ CD では、ディスクを取り出しても停止した場所が記憶されます（ラストメモリー機能）。[1] このとき、再度ディスクを入れると表示部に **LAST MEM** と表示され停止したところから再生を再開することができます。

停止中（**RESUME** または **LAST MEM** 表示中）に ■ **ボタン**をもう一度押すと、リジューム機能またはラストメモリー機能は解除されます。[2]

DVD のメニュー画面を操作する

多くの DVD ディスクではメニュー画面が表示されるので、そこで再生したい内容を選びます。ディスクを入れると自動的にメニュー画面が表示されることがありますが、表示されないときは**メニュー**または**トップメニューボタン**を押してメニュー画面を表示させます。

ボタン	機能
トップメニュー	DVD の最上層のメニュー画面を表示します。
メニュー	DVD のメニュー画面を表示します（トップメニューと同じ働きをすることがあります）。
⬆⬇⬅➡	メニュー項目の選択を行います。
決定	選択した項目を決定します。
戻る	1 つ前のメニュー画面に戻ります。
数字ボタン	DVD ディスクによっては番号を選んで**決定ボタン**を押すことで再生できることがあります。

ビデオ CD のメニュー画面を操作する（PBC 再生）

ビデオ CD ディスクで表示されるメニュー画面を操作し、再生したい内容を選ぶことを PBC（プレイバックコントロール）再生といいます。PBC 再生対応のビデオ CD を入れて ▶ **ボタン**を押すとメニュー画面が表示されるので、**数字ボタン**で再生したいトラックを選んで**決定ボタン**を押します。[3]

ボタン	機能
戻る	再生中に押すと PBC メニュー画面を表示します。

メモ

1 • ディスクの種類によってはラストメモリー機能が働かないことがあります。
• DVDディスク（VR モードのDVD-R/-RW ディスクを除く）は 5 枚分、ビデオ CD は 1 枚分の停止した場所が記憶されます。
• ラストメモリーを記憶させたくない場合は、■ **ボタン**を押さずに ⏏ **ボタン**でディスクを停止して、取り出してください。

2 CD や DivX ファイルの場合、リジューム機能は、ディスクを取り出すと解除されます。また、電源を切ったり、入力を DVD/CD 以外に切り換えたときも解除されます。

3 停止中に ⏮ または ⏭ **ボタン**を押す、または停止中に数字ボタンで選んで**決定ボタン**を押すことでメニュー画面を表示せずに再生することもできます。

ボタン	機能
数字ボタン	メニュー画面で選択したい数字項目を選びます。**決定ボタン**で決定します。
⏮	1 つ前のメニュー画面を表示します。
⏭	次のメニュー画面を表示します。

ラジオを聞く

本機では FM/AM 放送を受信することができます。また、お気に入りの放送局を記憶することで簡単に放送局を呼び出すことができます。

1　TUNER ボタンを押してラジオ入力にし、繰り返し押して FM 放送と AM 放送を切り換えます

表示部には FM または AM バンド表示と周波数が表示されます。

2　放送局の周波数を合わせます

周波数の合わせ方には以下の 3 つの方法があります。

- **マニュアルチューニング**
  TUNE ＋ / －ボタンを 1 回ずつ押して周波数を切り換えます。
- **オートチューニング**
  TUNE ＋ / －ボタンを押し続けて周波数が動きはじめたら指を離します。放送局を受信すると自動で止まります。
- **ハイスピードチューニング**
  TUNE ＋ / －ボタンを押し続けます。ボタンを押している間は周波数が連続して変化しますので、受信したいところで指を離します。

FM 放送の雑音を減らす

FM のステレオ放送で電波が弱く、雑音が多いときはモノラルにして放送を聞きやすくすることができます。

1　雑音の多い FM 放送局を受信している状態で、シフト＋設定ボタンを押します

2　←/→ で「FM MODE」を選んで、決定ボタンを押します

3　↑/↓ で「FM MONO」を選んで、決定ボタンを押します

表示部にモノインジケーター（○）が点灯します。

再びステレオで受信したいときは **FM AUTO** を選んで決定します（ステレオ受信しているときはステレオインジケーター（ꝏ）が点灯します）。

放送局を記憶する

FM/AM 放送合わせて 30 局まで、ステーション（記憶番号）に記憶することができ、いつでも簡単にお気に入りの放送局を呼び出すことができます。

1　記憶したい FM または AM 放送局を受信します

FM MODE の設定を必要に応じて設定してください。**FM MODE** の設定も記憶されます。

2　シフト＋設定ボタンを押し、←/→ で「ST. MEM.」を選んで、決定ボタンを押します

3　↑/↓ で記憶するステーション（記憶番号）を選んで、決定ボタンを押します

記憶した放送局を呼び出す

1　TUNER ボタンを押してラジオが聞ける状態にします

2　ST ＋ / －ボタンで記憶したステーション（記憶番号）を選びます

- **数字ボタン**でもステーション（記憶番号）を選ぶことができます。

他機器の音声を聞く

本機にテレビや BS チューナー、ゲーム機などを接続して、本システムのスピーカーで聞くことができます。詳しくは「他機器の接続と設定」(43 ページ) をご覧ください。

- 本機の USB 端子に USB メモリーを接続するときは「USB メモリーの再生」(33 ページ) をご覧ください。

1　本機に接続した機器（テレビや BS チューナー、ゲーム機など）の電源を入れます

2　LINE ボタンを押して再生したい機器の入力を選びます

押すたびに **LINE1（デジタル光）**[1] と **LINE2** が切り換わります。

3　必要に応じて機器を再生します

メモ

1 MPEG-2 AAC、ドルビーデジタル、DTS の 1+1 デュアルモノ音声（二カ国語音声番組など）の場合は、**音声ボタン**を押すことで音声を切り換えることができます。

第 3 章：

サラウンド再生

音源と音声出力について

音源

CD や DVD に収録されている音声、ラジオの音声、または外部入力端子に接続した機器の音声を音源といいます。音源には、ステレオ音声とマルチチャンネル音声があります。

- **ステレオ音声**
  右と左の 2 チャンネルが収録された音声です。主に CD やラジオ放送などで使われています。右と左に同じ音声が収録されているときはモノラル音声といいます。
- **マルチチャンネル音声**
  ステレオ音声より多くのチャンネルが収録された音声です。音声収録方式には MPEG-2 AAC、ドルビーデジタル、DTS があります。主に DVD ビデオなどで使われています。

音声出力

スピーカーから出力する音声です。本機には 2 つの音声出力があります。

2.1ch (ステレオ音声出力)

フロントスピーカー (右 / 左の 2 チャンネル) とサブウーファー (低音専用なので 0.1 チャンネルと呼ばれています) から音声を出力します。センタースピーカーからは音声を出力しません。

5.1ch (サラウンド音声出力)

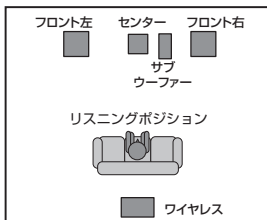
フロントスピーカー (右 / 左の 2 チャンネル)、センタースピーカー (1 チャンネル)、およびワイヤレススピーカー (右 / 左の 2 チャンネル) の合計 5 チャンネルと、サブウーファー (0.1 チャンネル) から音声を出力します。[1] 音源がステレオ音声やモノラル音声でも、センターおよびサラウンドの音声を作って出力します。

ワイヤレススピーカーのいろいろな設置

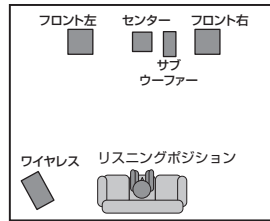
ワイヤレススピーカーはリスニングポジション（視聴位置）の真後ろ（中央）か左右の棚や置き台、または床に設置してください。また耳の高さよりも下に設置することをお勧めします。耳の高さより上に設置すると、サラウンド効果が十分に発揮されないことがあります。スピーカーを移動したときは、「サラウンドの自動設定（MCACC）」（13 ページ）を行ってください。

視聴位置の後ろに設置する

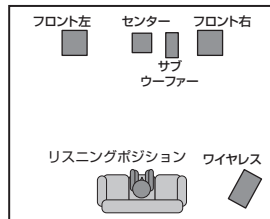
最もサラウンド効果の高い設置方法です。

- ワイヤレスモードは **「W.WIDE」** または **「W.NORMAL」** にしてください。

視聴位置の左側に設置する

左右の音場バランスを保ちつつ、広がり感を与えます。

- ワイヤレスモードは **「W.LEFT」** にしてください。

視聴位置の右側に設置する

左右の音場バランスを保ちつつ、広がり感を与えます。

- ワイヤレスモードは **「W.RIGHT」** にしてください。

ダイニングなどで使う

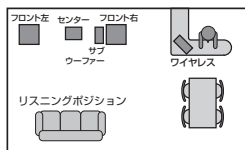
ワイヤレススピーカーをダイニングなどに持ち運び、ステレオ音声をお楽しみいただくことができます。

このときはワイヤレススピーカー以外のスピーカーからは音が出ません。

- ワイヤレスモードは **「W.STEREO」** にしてください。

メモ

1 音源によっては、ワイヤレススピーカーから音声が出力されないことがあります。また、センタースピーカーからのみ音声が出力されることがあります。

- リスニングモードは選択することができません。

市販のサラウンドスピーカーを使う

本機は市販のサラウンドスピーカーを接続することもできます。

この場合はワイヤレスモードを **「W.OFF」** にしてください（リスニングモードは **「サラウンドモード」** または **「アドバンスドサラウンドモード」** の中からお好きなモードが選べます）。インピーダンスが 4 Ω 以上、最大入力が 100 W（JEITA）以上のスピーカーをお使いください。また、専用のスピーカーケーブル（パイオニア部品番号：SDS1176（サラウンド左用青色）、SDS1177（サラウンド右用灰色））が必要となります。詳しくはパイオニア部品受注センターへご連絡ください（裏表紙参照）。

- 別売のワイヤレススピーカースタンド (型番 CP-F555W) があります。詳しくはカタログをご覧ください。
- ワイヤレススピーカーを視聴位置から極端に離して設置すると、サラウンド効果が十分に発揮されません。サラウンド効果の不十分なときは「スピーカー出力レベルの調整」（36 ページ）を ご覧になり SR(サラウンド右)、SL(サラウンド左) チャンネルのレベルを調整してください。特にワイヤレススピーカーを床に設置しているときは、チャンネルレベルの調整が効果的です。

チェック

- 使用中に電波の状態によって、音がとぎれたり出なくなったりすることがありますが故障ではありません。トランスミッターまたはワイヤレススピーカーの位置や方向を変えてみてください。
- トランスミッターとワイヤレススピーカーの距離は約 10 m まで使用可能です。この距離は使用環境により異なりますので、10 m を保証するものではありません。
- トランスミッターとワイヤレススピーカーが近すぎると受信状態が不安定になる場合があります。このような場合には、トランスミッターとワイヤレススピーカーを 1 m 以上離してお使いください。
- トランスミッターとワイヤレススピーカーの間に障害物（金属製のドアやコンクリート壁、アルミ箔入りの断熱材など）があると、電波を遮ってしまい音が出なくなるときがあります。その場合はトランスミッターとワイヤレススピーカーを互いに見通しの良い場所に設置してください。

ワイヤレスモードを選択する

サラウンドスピーカーとして使う

• シフト＋ワイヤレスボタンを押して、いずれかのモードを選択します

- ノーマルサラウンド

W.NORMAL

- ワイドサラウンド

W.WIDE

- 左サイドサラウンド

W.LEFT

- 右サイドサラウンド

W.RIGHT

表示部に「((W))」インジケーターが点灯します。

ステレオスピーカーとして使う

• シフト+ワイヤレスボタンを押して、「W.STEREO」を選択します[1]

• ステレオ

W.STEREO

表示部に「(W)」インジケーターが点滅します。ワイヤレススピーカー以外のスピーカーからは音が出ません。

市販のサラウンドスピーカーを使う

• シフト+ワイヤレスボタンを押して、「OFF」を選択します

• オフ

W.OFF

表示部の「(W)」インジケーターが消灯します。ワイヤレススピーカーからは音が出ません。

サラウンドモードを選択する

サラウンドモードは以下の中から選びます。お聴きになるソフトのジャンルに合わせて選択してください。

• サラウンドボタンを押します
押すたびに、以下のように切り換わります。[2]

※音源がステレオ音声のときのみ選ぶことができます。

• **オート(AUTO)** 2.1ch 5.1ch
音声を加工せず、収録されている音声を忠実に再現します。
CD などのステレオ音声は「STEREO(ステレオ)」2.1ch で出力します。
DVD ビデオなどのマルチチャンネル音声は音声収録方式に応じて 5.1ch で出力します。

• **ドルビープロロジック(DOLBY PL)** 5.1ch
ステレオ音声を 5.1ch で出力します(ただしサラウンドチャンネルの音声はモノラルになります)。特にドルビーサラウンドで収録されている音源に効果的です。

• **ドルビープロロジック II ムービー(MOVIE)** 5.1ch
ステレオ音声を 5.1ch で出力します。サラウンドチャンネルは定位や移動感を重視し、ドルビーデジタルなどに迫る音場を再現します。特にドルビーサラウンドで収録されている映画ソフトに最適です。

• **ドルビープロロジック II ミュージック(MUSIC)** 5.1ch
ステレオ音声を 5.1ch で出力します。サラウンドチャンネルは包囲感を重視しています。特に CD などの音楽に最適です。

• **ステレオ(STEREO)** 2.1ch
ステレオ音声をそのまま再生します。マルチチャンネル音声も 2.1ch で出力します。

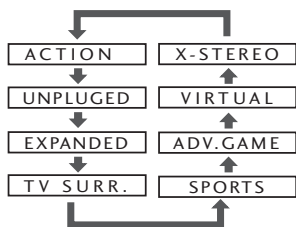
メモ

1 ワイヤレススピーカーをステレオスピーカーとして使うときは、音質の調整やサラウンド機能のいくつかが制限されます。制限される機能のボタン操作を行うと **W.STEREO** が点滅します。

2 • ドルビープロロジック II ミュージックモードのときは、音響効果を加えることができます (25 ページ)。
• サラウンドモード表示中に ⬆/⬇ **ボタン**を押すことでモードを切り換えることもできます。
• TUNER 入力時はステレオ(STEREO)モードになります。

アドバンスドサラウンドモードを選択する

フロントスピーカーに加え、センタースピーカーやワイヤレススピーカーも使い、パイオニアオリジナルのサラウンド効果を加えて再生するときのリスニングモードです。

- **アドバンスドボタンを押します**
  押すたびに、以下のように切り換わります。[1]

※表示部に **SURR.** が点灯します。

- **アクションムービー（ACTION）** 5.1ch
  映画館のような臨場感や移動感を再現します。SF 映画やアクション映画に最適です。
- **アンプラグド（UNPLUGED）** 5.1ch
  コンサートホールのような包囲感を再現します。ライブやミュージッククリップなどの DVD ビデオ、または CD やテレビ / ラジオ放送の音楽に最適です。
- **エキスパンデッド（EXPANDED）** 5.1ch
  ステレオ音声、マルチチャンネル音声ともに自然な広がり感のある音場になります。あらゆるソフトに効果的です。
- **TV サラウンド（TV SURR.）** 5.1ch
  モノラル音声に広がり感を与えます。モノラル音声で収録された DVD ディスクやテレビ / ラジオ放送に最適です。
- **スポーツ（SPORTS）** 5.1ch
  スタジアムのような臨場感や躍動感を再現します。スポーツ中継に最適です。
- **アドバンスドゲーム（ADV.GAME）** 5.1ch
  ゲームの移動感、スピード感に迫力を加えます。シューティングゲームやレーシングゲームに最適です。
- **バーチャル（VIRTUAL）** 2.1ch
  フロントスピーカーとサブウーファーで広がり感を与えます。
- **エキステンデッドステレオ（X-STEREO）** 5.1ch
  フロントスピーカーと同じ音声をワイヤレススピーカーからも出力します。部屋のどの場所にいてもステレオ感のある音場になります。音楽を BGM として楽しむときに効果的です。

ヘッドホンを使用した再生

ヘッドホンプラグを差しているときは、**STEREO** または **PHONES SURROUND**（ヘッドホンサラウンド）のみ選ぶことができます。

- **ヘッドホンプラグを差しているとき、「PHONES SURROUND」はアドバンスドボタンを押して、「STEREO」はサラウンドボタンを押して選びます**

メモ

1 • TUNER 入力時は、ステレオ（STEREO）モードになります。アドバンスドサラウンドモードを選択できません。
• アドバンスドサラウンドモードを解除したいときは、**サラウンドボタン**を押してください。
• アドバンスドサラウンドモード表示中に ⬆/⬇ **ボタン**を押すことでモードを切り換えることもできます。

トーンコントロール機能を使う

トーンコントロール機能を使って、音質の調整を行うことができます。

高音と低音の調整

低音と高音の音質をお好みで調整することができます。

マナー機能 / ミッドナイト機能

マナー機能は、夜間に音楽や映画を楽しむとき、低域と高域を抑えることにより隣室などへの音もれを低減しつつ、セリフを聴き取りやすくします。ミッドナイト機能は、サラウンド音声の映画を小音量で見るときに効果的です。

- これらの機能は同時に使用することはできません。[1]

1　サウンドボタンを押して、⇐/⇒ で「TONE」を選んで、決定ボタンを押します

2　⇑/⇓ で使用したい項目を選んで、決定ボタンを押します

項目は**「BASS/TRE」**、**「MANNER」**または**「MIDNIGHT」**から選びます。

3 「BASS/TRE」を選んだ場合は、⇐/⇒ で「BASS」または「TREBLE」を選んで、⇑/⇓ で音質を調整して、決定ボタンを押します

低音を強調する

低音だけを強調して迫力ある低音で再生します。音楽の低音再生に適した **MUSIC** モードと、映画の重低音再生に適した **CINEMA** モードがあります。[2]

1　サウンドボタンを押して、⇐/⇒ で「BASSMODE」を選び、決定ボタンを押します

2　⇑/⇓ でお好みの設定を選んで、決定ボタンを押します

設定は**「OFF」**、**「MUSIC」**または**「CINEMA」**から選びます。

セリフやボーカル音の調整

通常センタースピーカーから聞こえるセリフをテレビから聞こえるように音像を移動したり、セリフやボーカルを明瞭に再生します。

1　サウンドボタンを押して、⇐/⇒ で「DIALOGUE」を選び、決定ボタンを押します

2　⇑/⇓ でお好みの設定を選んで、決定ボタンを押します

設定は**「OFF」**、**「MID」**または**「MAX」**から選択します。

メモ

1 マナー機能とミッドナイト機能をオフにしたいときは**「BASS/TRE」**を選びます。
2 • ヘッドホンプラグを差しているときは、**「BASSMODE」**は使用できません。
• 再生しているソースによっては、サブウーファーの音が歪んでしまうことがあります。このようなときは、**「OFF」**に設定してください。
• ステレオ再生（2.1ch）とマルチチャンネル再生（5.1ch）で、別々のモードを設定することができます。

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10

周波数特性の補正

「サラウンドの自動設定（MCACC）」(13 ページ）で設定された周波数特性の補正（アコースティック EQ）をオン／オフすることができます。[1] オンにすることでチャンネル間の音色の違いを統一させ、再生音のつながりを良くし、音場バランスを改善します。

1 サウンドボタンを押して、←/→ で「MCACC EQ」を選び、決定ボタンを押します

2 ↑/↓ で「EQ ON」または「EQ OFF」を選んで、決定ボタンを押します

- 「サラウンドの自動設定（MCACC）」(13 ページ）が完了すると、**「EQ ON」**が自動的に選択されます。
- **「EQ OFF」**を選択した場合も「サラウンドの自動設定（MCACC）」（13 ページ）で設定された各スピーカーまでの距離や出力レベルを保持します。

ドルビープロロジック II ミュージックモードの調整

ドルビープロロジック II ミュージックモードを選択しているときは、「センター幅」、「ディメンション」または「パノラマ」の 3 つの設定を調整することができます。

1 ドルビープロロジック II ミュージックモードを選んでから、サウンドボタンを押す

2 ←/→ で「C WIDTH」、「DIMEN.」または「PANORAMA」を選んで、決定ボタンを押します

3 ↑/↓ で選んだモードを調整して、決定ボタンを押します

- **C WIDTH**（センター幅の調整）
  – センターチャンネルの音声を左右のフロントスピーカーにどの程度振り分けるかを調整します。この調整によって音色の不一致を緩和して、音楽再生に適した音域を創り出すことができます。
  ● 0 ～● 7
  （**0** はセンタースピーカーのみからの出力で、**7** はセンターチャンネルの音声をすべての左右のフロントスピーカーに振り分けます。）
- **DIMEN.**（ディメンションの調整）
  – リスニングポジションから前方の音場を強くするか、後方の音場を強くするかを調整します。この調整を行うことで広がりのある音場を創り出すことができます。
  ●– 3 ～●+ 3
  （**– 3** はリスニングポジションから後方の音場が強くなり、**+ 3** は前方の音場が強くなります。）
- **PANORAMA**（パノラマ調整）
  – 前方の音場を左右に大きく回り込ませ、サラウンドチャンネルにつなげるようなサラウンド効果を加えます。正確な定位よりも雰囲気を楽しむための機能です。
  ● PNRM.OFF/ ● PNRM.ON

圧縮音声を高音質化する

WMA、MP3、MPEG-4 AAC などの圧縮音声を再生するときに効果的です。圧縮音声は圧縮処理される際、人が感じ取りにくい部分の音声が削除されてしまいます。サウンドレトリバー機能では、削除されてしまった部分の音声を DSP 処理によって補い、音の密度感、抑揚感を向上させて再生します。

• ステレオ音声を再生中に、サウンドレトリバーボタンを押して、オンとオフを切り換えます[2]

メモ

1 ヘッドホンプラグを差しているときは、アコースティック EQ は使用できません。
2 マルチチャンネル音声を再生しているときはサウンドレトリバー機能は使用できません。

第 4 章：
いろいろなディスクを再生する

重要

- この章で説明されているいろいろな再生方法は DVD、ビデオ CD、CD、DivX、WMA/MP3/MPEG-4 AAC/JPEG ファイルの再生時に有効ですが、一部のディスクでは正確に動作しないことがあります。
- DVD ディスクの種類によって、ランダム再生やリピート再生機能などの一部機能に制限がありますが、故障ではありません。
- ビデオ CD の PBC 再生中はいくつかの機能が使用できません。機能を使用したいときは停止中に ⏮ または ⏭ **ボタン**で選ぶか、**数字ボタン**と**決定ボタン**で再生してください。PBC 再生が解除されます。

早戻し / 早送り再生する

速さを切り換えながらディスクの早戻し / 早送り再生ができます。[1]

- **再生中に ◀◀ または ▶▶ ボタンを押します**

ボタンを押すたびに速さを切り換えることができます（テレビ画面に表示されます）。

- 通常の再生に戻すには ▶ **ボタン**を押します。[2]

スロー再生する

DVD、ビデオ CD または DivX ファイルで 4 段階のスロー再生を行います。DVD ディスクのときは逆方向のスロー再生も可能です。

1　再生中に II ボタンを押して一時停止させます

2　◀I/◀II または II▶/I▶ ボタンをスロー再生が始まるまで押し続けます

スロー再生中、ボタンを押すたびに速さを切り換えることができます（テレビ画面に表示されます）。

- 通常の再生に戻すには ▶ **ボタン**を押します。[2]

コマ送り / コマ戻し再生する

DVD、ビデオ CD または DivX ファイルでコマ送り再生を行います。DVD ディスクのときはコマ戻し再生も可能です。

1　再生中に II ボタンを押して一時停止させます

2　◀I/◀II または II▶/I▶ ボタンを押してコマ送りまたはコマ戻し再生します

- 通常の再生に戻すには ▶ **ボタン**を押します。[2]

JPEG をスライドショー再生する

JPEG ファイルを含んだディスクを入れて ▶ **ボタン**を押すと、JPEG ファイルのスライドショー再生が始まります。[3] スライドショー再生は JPEG ファイルを、各フォルダーごとにファイル名のアルファベット順で表示し、フォルダーをまたいですべての JPEG ファイルを再生します。

メモ

1 DivX ファイルでは速さを切り換えることはできません。
2 • DVD で新しいチャプターになったときは自動で通常の再生に戻ることがあります。
• ビデオ CD の PBC 再生、または WMA/MP3/MPEG-4 AAC ファイル（早戻し / 早送り再生時のみ）では曲の始まりまたは終わり部分になったときは自動で通常の再生に戻ります。
3 • 容量の大きいファイルを読み込むときは再生に時間がかかることがあります。
• 1 枚のディスクに最大 299 フォルダー、フォルダーごとにフォルダーとファイルの数が合計で 648 まで認識することができます。

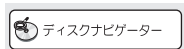
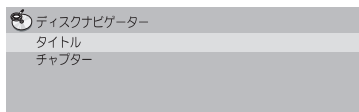
- 画像はテレビ画面に最大の大きさで表示されるよう自動で調整されます。
- JPEG ファイルと WMA/MP3/MPEG-4 AAC ファイルが同じディスクに記録されているときはそれぞれのファイルを同時に繰り返し再生します。その際、⏮/⏭、◀◀/▶▶、⏸ **ボタン**での操作は WMA/MP3/MPEG-4 AAC ファイルが対象となります。

スライドショー再生中の操作：

ボタン	機能
⏸	スライドショー再生（音楽が同時再生中は曲の再生）を一時停止 / 一時停止解除します。
⏮	ひとつ前の画像（音楽が同時再生中は曲の頭）にスキップします。
⏭	次の画像（音楽が同時再生中は次の曲）にスキップします。
⬆⬇⬅➡	スライドショー再生を停止して画像を回転 / 反転します。通常のスライドショー再生に戻すには ▶ **ボタン**を押します。
シフト＋ズーム	スライドショー再生を停止して画像を拡大します。押すたびに 2 倍→ 4 倍→通常と切り換わります。通常のスライドショー再生に戻すには ▶ **ボタン**を押します。
メニュー	ディスクナビゲーター画面を表示します。

ディスクナビゲーターを使って DVD/ビデオ CD ディスクを再生する

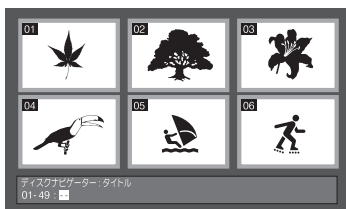
ディスクナビゲーターを使って、DVD またはビデオ CD の再生したいタイトルやトラックなどを一覧から選んで再生することができます。

1　再生中にホームメニューボタンを押して、「ディスクナビゲーター」を選びます

2　再生したい項目を選びます

選べる項目はディスクの種類によって異なります。

DVD ビデオ	VR DVD-R/RW[a]	ビデオ CD
タイトル	**オリジナル：タイトル**	**トラック**
チャプター	**オリジナル：時間**	**時間**
	プレイリスト：タイトル	
	プレイリスト：時間	

a　DVD レコーダーで録画して作られたタイトルを [オリジナル]、オリジナルをもとに編集用に作成されたタイトルを [プレイリスト] といいます。

- **[時間]** を選択すると、10 分おきの画像を表示します。

3　再生したい番号を選びます

先頭の画像が 6 枚ずつ表示されます。⏭ **ボタン**を押すと次の 6 枚に切り換わり、⏮ **ボタン**で戻ります。

数字ボタンで番号を入力する、または番号にカーソルを合わせてから**決定ボタン**を押します。

ディスクナビゲーターを使って WMA/MP3/MPEG-4 AAC/ DivX または JPEG ファイルを再生する

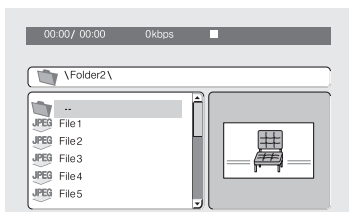
ディスクナビゲーターを使って再生したいファイル名やフォルダー名[1] を選ぶことができます。

1　ホームメニューボタンを押して、「ディスクナビゲーター」を選びます

2　⬆/⬇ で再生したいトラック / ファイル / タイトルを選びます

⬅ **ボタン**で 1 つ上の階層に戻します。[2]

決定ボタンまたは ➡ **ボタン**で選択したフォルダーを開きます。

- JPEG ファイルにカーソルを合わせると、選択しているファイルの画像が右側に表示されます。

3　決定ボタンを押して、選んだトラック / ファイル / タイトルを再生します

- WMA/MP3/MPEG-4 AAC または DivX ファイルではファイルの再生が始まり、フォルダーの最後まで再生します。
- JPEG ファイルではスライドショー再生が始まり、フォルダーの最後まで再生します。

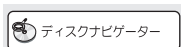
チェック

- ディスクに WMA/MP3/MPEG-4 AAC ファイルと JPEG ファイルの両方が収録されているときは、WMA/MP3/MPEG-4 AAC ファイルを選択してから JPEG ファイルを選択することで音楽を聞きながらスライドショー再生することができます。それぞれのファイルはフォルダー内で繰り返し再生します。この時、►、II、I◄◄/►►I **ボタン**での操作は JPEG ファイルが対象となります。
- ディスクナビゲーターを使うと、フォルダーごとの再生となります。各フォルダーごとではなくディスクに収録されたすべてのファイルを再生したいときは、ディスクをセットしたあとに、► **ボタン**を押して再生を開始してください (26 ページ)。

好みのファイルを記憶する（プレイリスト）

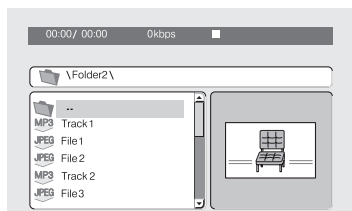
ディスクに含まれている WMA/MP3/MPEG-4 AAC または JPEG ファイルからお好みのファイルを選んで、プレイリストに登録することができます。ディスク 1 枚につき 3 種類のプレイリストを作成することができます。1 つのプレイリストには 30 ファイル登録することができます。また、ディスク 10 枚分のプレイリストを作成することができます。[3]

プレイリストに登録するには

1　停止中にホームメニューボタンを押して、「ディスクナビゲーター」を選びます

メモ

1 半角英数字以外の文字には対応していません。半角英数字以外で入力されたフォルダー / トラック / ファイル名は文字化けしたり、[F_001]/[T_001]/[FL_001] のように表示されることがあります。
2「**- -**」フォルダーを選んで**決定ボタン**を押しても、上の階層に戻すことができます。
3 プレイリストの登録がディスク 10 枚分を超えると、最初に登録したディスクのプレイリストから順に消去されます。

2　プレイリストに入れたいファイルを選びます

詳しくは「ディスクナビゲーターを使ってWMA/MP3/MPEG-4 AAC/DivX またはJPEG ファイルを再生する」(28 ページ) の手順 2 をご覧ください。

3　プレイリスト（1/2/3）ボタンを押します

4　手順 2 ～ 3 を繰り返して、プレイリストを作成します

- プレイリストに入れたいファイルを再生中に、**プレイリスト（1/2/3）ボタン**を押すことで、プレイリストを作成することもできます（WMA/MP3/MPEG-4 AAC ファイルを聞きながら JPEG ファイルをスライドショー再生しているときは除く）。

プレイリストを再生するには

• 停止中にプレイリスト（1/2/3）ボタンを押します

プレイリストの再生を開始します。

再生中は表示部に **PGM** が点灯します。プレイリストに何も登録されているファイルがなかった場合は、**NO LIST** と表示されます。

プレイリストに WMA/MP3/MPEG-4 AAC ファイルと JPEG ファイルが両方含まれている場合、スライドショー再生しながら WMA/MP3/MPEG-4 AAC ファイルが再生されます。

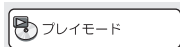
プレイリストを消去するには

1　プレイリストを再生します

2　ディスクナビゲーターを使ってプレイリストから消去したいファイルを選んで、クリアボタンを押します

指定した箇所を繰り返し再生する

指定した 2 つのポイント（A と B）の間を繰り返し再生します（A-B リピート）。[1]

1　再生中にホームメニューボタンを押して、「プレイモード」を選びます

2 「A-B リピート」を選びます

3 「A（開始箇所）」を選んで開始したい箇所で決定ボタンを押します

4 「B（終了箇所）」を選んで終了したい箇所で決定ボタンを押します

決定ボタンを押すと開始箇所から終了箇所までを繰り返し再生します。

5　解除するときは「オフ」を選びます

繰り返し再生する

いろいろなリピート再生ができます。プログラム再生と合わせてプログラムリピート再生もできます。プログラム再生については「好みの順に再生する」(30 ページ) をご覧ください。

1　再生中にホームメニューボタンを押して、「プレイモード」を選びます

2 「リピート」を選んでリピート再生の種類を選びます[2]

- プログラム再生が設定されているときは、**プログラムリピート**を選びます。

メモ

1 • 異なるタイトルをまたいで A-B リピート再生をすることはできません。
• A-B リピート再生ができるのは、DVD、CD、ビデオ CD のみです。

2 WMA/MP3/MPEG-4 AAC、JPEG ファイルではリピート再生できません。

- DVD のときは**タイトルリピート**または**チャプターリピート**を選びます。
- CD またはビデオ CD のときは**ディスクリピート**または**トラックリピート**を選びます。
- DivX のときは**タイトルリピート**を選びます。
- ディスクを停止するか**リピートオフ**を選ぶとリピート再生は解除されます。

順不同に再生する

DVD ビデオのタイトルまたはチャプター、CD またはビデオ CD のトラックをランダム再生します。[1]

1　再生中にホームメニューボタンを押して、「プレイモード」を選びます

2 「ランダム」を選んでランダム再生の種類を選びます

- DVD のときは**ランダムタイトル**または**ランダムチャプター**を選びます。
- CD またはビデオ CD のときは**オン**を選びます。

チェック

- ランダム再生中の操作：

ボタン	機能
►►I	順不同に次のタイトル / トラック / チャプターを選んで再生します。
I◄◄	現在再生中のタイトル / トラック / チャプターの始めに戻ります。さらに押すと順不同に再生します。

- ディスクを停止するか**ランダムオフ**を選ぶとランダム再生は解除されます。

好みの順に再生する

タイトル / チャプター / トラックを好みの順にプログラムすることができます。[2]

1　再生中にホームメニューボタンを押して、「プレイモード」を選びます

2 「プログラム」を選んで、プログラムメニューの中から「プログラム入力・編集」を選びます

3　⬆/⬇/⬅/➡　と決定ボタンでプログラムしたいタイトル / チャプター / トラックを選びます

- DVD ではタイトルまたはチャプターをプログラムできます。
- CD またはビデオ CD ではトラックをプログラムできます。

決定ボタンを押すとプログラムステップが自動で下へ移動します。

4　手順 3 を繰り返してプログラムリストを作成します

プログラムステップは最大 24 までです。

- ステップの間にプログラムを追加したいときはプログラムステップの追加したい箇所にカーソルを合わせ、追加するタイトル / チャプター / トラックを選びます。
- ステップを削除したいときは削除したいステップにカーソルを合わせて**クリアボタン**を押します。

メモ

1 • ランダム設定は再生中でも停止中でもできますが、プログラム再生中はランダム再生することができません。
• VR モードの DVD-R/-RW、WMA/MP3/MPEG-4 AAC、JPEG、DivX ファイルまたは DVD のメニュー画面表示中はランダム再生することができません。

2 VR モードの DVD-R/-RW、WMA/MP3/MPEG-4 AAC、JPEG、DivX ファイルまたは DVD のメニュー画面表示中はプログラム再生することができません。

5 ► ボタンを押してプログラム再生を始めます

チェック

- プログラム再生中（入力中）の操作：

ボタン	機能
ホームメニュー	（入力中）プログラムリストを記憶して画面を終了します。
⏮/⏭	（再生中）プログラムされた前後の曲にスキップします。

プログラム再生を開始 / 解除 / 全消去するには

プログラムメニューの中から以下の項目を選びます。

- **プログラム再生の開始** – プログラムされている内容で再生します。
- **プログラム再生の解除** – 通常の再生に戻りますが、プログラム内容はそのまま残ります。
- **プログラムの全消去** – プログラム内容をすべて消去します。

見たい場面を探す（サーチモード）

DVD ディスクのタイトル / チャプター / 時間を指定して見たい場面を再生できます。CD やビデオ CD ではトラック / 時間を、DivX では時間を指定して再生できます。

1 ホームメニューボタンを押して、「プレイモード」を選びます

2 「サーチモード」を選んでサーチモードの種類を選びます

- タイムサーチは再生中のみ選べます。

3 数字ボタンで再生したいタイトル / チャプター / トラックまたは時間を入力します

- タイムサーチのときは再生したい場面（DVD/DivX のときはタイトル、CD/ ビデオ CD のときはトラック）の時間を指定します。たとえば **4,5,3,0** と押すと 45 分 30 秒から再生します。1 時間 20 分 30 秒を再生するには **8,0,3,0** と押します。

4 決定ボタンを押して再生を開始します

字幕を切り換える

DVD や DivX ファイルによっては字幕が収録されているものがあります。字幕対応ディスクかどうかはパッケージに記載があります。字幕は再生中に切り換えることができます。[1]

• 再生中にシフト+字幕ボタンを繰り返し押して、字幕を切り換えます

- DVD は字幕の初期設定を行うことができます。詳しくは「**字幕言語**」（40 ページ）をご覧ください。

メモ

1 • ディスクによっては DVD のメニュー画面でしか字幕が切り換えられないものがあります。この場合、 **トップメニュー**または**メニューボタン**を押してメニュー画面から切り換えてください。
• ここで切り換えた字幕の設定は、リジューム機能 (16 ページ) を解除したとき、またはディスクを取り出したときに初期設定 (40 ページ) に戻ります。

音声を切り換える

二カ国語以上の言語が収録されているディスクやデュアルモノディスク[1] などの再生中に音声を切り換えることができます。[2]

- **再生中に音声ボタンを繰り返し押して、音声を切り換えます**
  - 音声の初期設定を行うことができます。詳しくは「**音声言語**」（40 ページ）をご覧ください。

画像を拡大する

DVD/DivX/ ビデオ CD/JPEG の画像を 2 倍、4 倍と拡大します。

1 再生中にシフト+ズームボタンを押します

押すたびに 2 倍→ 4 倍→通常と切り換わります。

2 ⬆/⬇/⬅/➡ でズームエリアを移動します

ズームエリアと倍率は再生中、自由に切り換えることができます。[3]

アングルを切り換える

複数のアングルが収録されているマルチアングル DVD ディスクがあります（パッケージに記載があります）。複数のアングルが収録されている場面になると マークが画面に表示されます（この表示を消すには「**アングルマーク表示**」(40 ページ) をご覧ください）。

- **再生中にシフト+アングルボタンを押してアングルを切り換えます**[4]

ディスクの情報を表示する

ディスクの再生中にトラック / チャプター / タイトル情報を画面に表示します。

- **表示ボタンを繰り返し押して、ディスク情報の表示を切り換えます**

ディスクの残り時間などは表示部にも表示されます。この場合も**表示ボタン**を押して、表示を切り換えます。

メモ

1 ビデオ CDでは、ステレオ、1/L（左）、2/R（右）が切り換り、二カ国語で記録された VR モードの DVD-R/-RW ディスクでは主、副、主 / 副音声が切り換わります。

2 • ディスクによっては DVD のメニュー画面でしか音声が切り換えられないものがあります。この場合、**トップメニュー**または**メニューボタン**を押してメニュー画面から切り換えてください。
  • ここで切り換えた音声の設定は、リジューム機能 (16 ページ) を解除したとき、またはディスクを取り出したときに初期設定 (40 ページ) に戻ります。

3 • DVD/ ビデオ CD/DivX または JPEG 画像の解像度は同じまま拡大されます。画像品質は 2 倍、4 倍と悪くなりますが、これは故障ではありません。
  • 拡大位置を示すカーソルが画面から消えてしまったときは**ズームボタン**をもう一度押して再度表示させます。

4 • マークが表示されてもアングルを切り換えることができないディスクもあります。
  • メニュー画面でアングルを切り換えることができるディスクもあります。

第 5 章：

USB メモリーの再生

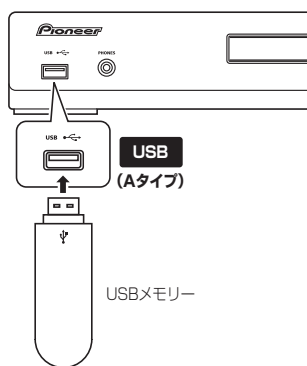
USB メモリーを再生する

USB メモリーを本機に接続することで、USB メモリーに記録されている WMA/MP3/MPEG-4 AAC ファイル[1] や JPEG ファイルを再生することができます。USB メモリーは以下のように接続します。[2]

1　本機の電源を入れて USB ボタンを押します

テレビの電源を入れ、テレビの入力を本機に合わせます。

2　USB メモリーを接続します

USB 端子は本機前面部にあります。

3　► ボタンを押して再生を開始します

USB メモリーに JPEG ファイルが含まれているときはスライドショー再生が始まります。詳しくは「JPEG をスライドショー再生する」(34 ページ) をご覧ください。

- 取り外すときは本機の電源をオフにしてから取り外してください。

重要

USB メモリーの消費電力が大きすぎて電力が供給できないと**「USB ERR」**が表示されます。下記の操作を行っても**「USB ERR」**が表示されるときは、USB メモリーが本機に対応していないということになります。

- 本機の電源をオフにしてから、再度電源を入れる。
- 本機の電源をオフにしてから USB メモリーを抜き、再度 USB メモリーを接続し、電源を入れる。
- USB 以外の入力に切り換えてから、再度 USB 入力にする。
- AC アダプターが付属されている USB メモリーをお使いの場合は、AC アダプターを接続して使用してみる。

メモ

1 本機で再生できるUSB メモリーの音楽ファイルは、WMA/MP3/MPEG-4 AAC のステレオまたはモノラル音声で、DRM コピープロテクト（著作権保護）のかかっていないファイルのみです。USB メモリー内の DivX ファイルを再生することはできません。

2 • 本機とパソコンをUSB ケーブルで接続して WMA/MP3/MPEG-4 AAC ファイルや JPEG ファイルを再生することはできません。本機が対応している USB メモリーは、外付ハードディスクや携帯フラッシュメモリー、デジタルオーディオ再生機（FAT16、FAT32 のフォーマットに対応）などの USB マスストレージクラスに属する機器です。
- 本機ではすべてのUSB メモリーの再生および電源の供給を保証できない場合があります。また、万が一本機と接続したことでUSB メモリーのファイルが損失した場合、弊社は一切の責任を負うことができませんので、あらかじめご了承ください。
- 容量の大きいUSB メモリーを接続したときは、読み込みに多少時間がかかることがあります。
- USB ハブには対応しておりません。

いろいろな再生のしかた

USB 再生の基本操作：

ボタン	機能
►	再生します。
II	一時停止 / 一時停止解除します。
■	停止します。
◄◄	早戻しします。
►►	早送りします。
I◄◄	再生中のファイルの始めにスキップします。押した回数だけ前のファイルにスキップします。
►►I	次のファイルにスキップします。

早戻し / 早送り再生する

速さを切り換えながら早戻し / 早送り再生ができます。

• **再生中に ◄◄ または ►► ボタンを押します**

ボタンを押すたびに速さを切り換えることができます（テレビ画面に表示されます）。

- 通常の再生に戻すには ► **ボタン**を押します。[1]

JPEG をスライドショー再生する

JPEG ファイルを含んだ USB メモリーをセットして ► **ボタン**を押すと、JPEG ファイルのスライドショー再生が始まります。[2] スライドショー再生は JPEG ファイルを、各フォルダーごとにファイル名のアルファベット順で表示し、フォルダーをまたいですべての JPEG ファイルを再生します。

- 画像はテレビ画面に最大の大きさで表示されるよう自動で調整されます。
- WMA/MP3/MPEG-4 AAC ファイルと JPEG ファイルの両方が USB メモリーに記録されているときは、それぞれのファイルを同時に繰り返し再生します。その際、I◄◄/►►I、◄◄/►►、II **ボタン**での操作は WMA/MP3/MPEG-4 AAC ファイルが対象となります。

スライドショー再生中の操作：

ボタン	機能
II	スライドショー再生（音楽が同時再生中は曲の再生）を一時停止 / 一時停止解除します。
I◄◄	ひとつ前の画像（音楽が同時再生中は曲の始め）にスキップします。
►►I	次の画像（音楽が同時再生中は次の曲）にスキップします。
⬆⬇⬅➡	スライドショー再生を停止して画像を回転 / 反転します。通常のスライドショー再生に戻すには ► **ボタン**を押します。
ズーム	スライドショー再生を停止して画像を拡大します。押すたびに 2 倍→ 4 倍→通常と切り換わります。通常のスライドショー再生に戻すには ► **ボタン**を押します。
メニュー	ナビゲーター画面を表示します。

メモ

1 WMA/MP3/MPEG-4 AAC ファイルでは曲の始まりまたは終わり部分になったときは自動で通常の再生に戻ります。

2 • 容量の大きいファイルを読み込むときは再生に時間がかかることがあります。
• USB メモリーは最大 299 フォルダー、フォルダーごとにフォルダーとファイルの数が合計で 648 まで認識することができます。

ナビゲーターを使って再生する

ナビゲーターを使って WMA/MP3/MPEG-4 AAC/JPEG から再生したいファイル名やフォルダー名[1] を選ぶことができます。

1　メニューボタンを押して、⬆/⬇ で再生したいフォルダー / ファイルを選びます

⬅ **ボタン**で 1 つ上の階層に戻します。[2]

決定ボタンまたは ➡ **ボタン**で選択したフォルダーを開きます。

- JPEG ファイルにカーソルを合わせると、選択しているファイルの画像が右側に表示されます。

2　決定ボタンを押して、選んだトラックまたはファイルを再生します

- WMA/MP3/MPEG-4 AAC ではファイルの再生が始まり、フォルダーの最後まで再生します。
- JPEG ファイルではスライドショー再生が始まり、フォルダーの最後まで再生します。

チェック

- USB メモリーに WMA/MP3/MPEG-4 AAC と JPEG ファイルの両方が記録されているときは、WMA/MP3/MPEG-4 AAC ファイルを選択してから JPEG ファイルを選択することで音楽を聞きながらスライドショー再生することができます。それぞれのファイルはフォルダー内で繰り返し再生します。この時、►、II、I◄◄/►►I **ボタン**での操作は JPEG ファイルが対象となります。
- ナビゲーターを使うと、フォルダーごとの再生となります。各フォルダーごとではなく USB メモリーに収録されたすべてのファイルを再生したいときは、USB メモリーを接続したあとに、► **ボタン**を押して再生を開始してください (34 ページ)。

メモ

1 半角英数字以外の文字には対応していません。半角英数字以外で入力されたフォルダー / トラック / ファイル名は文字化けしたり、[F_001]/[T_001]/[FL_001] のように表示されることがあります。
2「**- -**」フォルダーを選んで**決定ボタン**を押しても、上の階層に戻すことができます。

第 6 章：

サラウンドの設定

サラウンドの設定を行う

スピーカー出力レベルの調整やスピーカー距離の設定をすることができます。サラウンドの自動設定 (MCACC) を行った場合、自動で高精度に測定、設定されているのでここでの設定は必要ありませんが、お好みに応じて調整することもできます。

- 再度、「サラウンドの自動設定（MCACC)」(13 ページ) を行うとここでの設定は上書きされてしまうので注意してください。

スピーカー出力レベルの調整

再生している音声で調整する

音声を再生し、**サラウンドボタン**または**アドバンスドボタン**を押して、ステレオ再生（2.1ch）かマルチチャンネル再生（5.1ch）か調整したい方のリスニングモードを選んでから、各スピーカー出力レベルの調整を行ってください。

1　シフト+設定ボタンを押し、⬅/➡ で「CH LEVEL」を選んで、決定ボタンを押します

2　⬅/➡ で調整するチャンネルを選び、⬆/⬇ で各チャンネルの出力レベルを調整して、決定ボタンを押します[1]

L（フロント左）― C（センター）― R（フロント右）― SW（サブウーファー）― SL（サラウンド左）― SR（サラウンド右）

スピーカー出力レベル範囲は±10 dB です。

テストトーンで調整する

テストトーン（ザーという音）を聞きながら各スピーカーの出力レベルを調整することもできます。**サラウンドボタン**または**アドバンスドボタン**を押して、ステレオ再生（2.1ch）かマルチチャンネル再生（5.1ch）か調整したい方のリスニングモードを選んでから、各スピーカー出力レベルの調整を行ってください。

1　シフト+テストトーンボタンを押します

各チャンネルのテストトーンが自動的に切り換わって出力されます。

2　音量ボタンで調整しやすい音量にします

3　⬆/⬇ で各スピーカーから同じ音量で聞こえるように調整して、決定ボタンを押します[2]

スピーカー距離の設定

リスニングポジションから各スピーカーまでの距離を指定します。

1　シフト+設定ボタンを押し、⬅/➡ で「DISTANCE」を選んで、決定ボタンを押します

2　⬅/➡ で設定するスピーカーを選び、⬆/⬇ で各スピーカーまでの距離を調整して、決定ボタンを押します

L（フロント左）― C（センター）― R（フロント右）― SW（サブウーファー）― SL（サラウンド左）― SR（サラウンド右）

各スピーカーは 0.3 m から 9.0 m の間を 0.3 m 間隔で調整することができます。

メモ

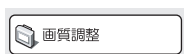
1 •「**STEREO**」または「**VIRTUAL**」を選択しているとき（またはステレオ音声で「**AUTO**」を選択しているとき)、センターまたはワイヤレススピーカーの出力レベルを調整することはできません。
• ワイヤレススピーカーをステレオスピーカーとして使用しているときやヘッドホンを挿入しているときはスピーカー出力レベルを調整することはできません。

2 • サブウーファーのテストトーンは、周波数が低いので実際のレベルより小さく聞こえます。
•「**AUTO**」を選択していてテストトーンを出力したときは、再生している音源によらず、5.1ch 用の設定値が表示され、調整することができます。
• ステレオ再生（2.1ch）のときは、センターおよびワイヤレススピーカーからはテストトーンが出力されません。

第 7 章：
画質調整

画質を調整する

画質調整画面から、モニターの効果を調整することができます。[1]

1　ホームメニューボタンを押して、ホームメニュー画面から「画質調整」を選びます

2　↑/↓/←/→ と決定ボタンで、各項目を設定します

以下の項目が設定できます。

- **シャープネス**－ 画像の鮮明度を調整します。（ファイン、標準、ソフト）
  < お買い上げ時の設定：**標準** >
- **ブライトネス**－ 画面の明るさを調整します。（－ 20 ～＋ 20）
  < お買い上げ時の設定：**0**>
- **コントラスト**－ 最も明るい部分と最も暗い部分との明るさの比率を調整します。（－ 16 ～＋ 16）
  < お買い上げ時の設定：**0**>
- **ガンマ** － 画像の暗い部分の見えかたを強調します。（大、中、小、オフ）
  < お買い上げ時の設定：**オフ** >
- **色あい** － 緑色と赤色のバランスを調整します。（緑 9 ～赤 9）
  < お買い上げ時の設定：**0**>
- **色の濃さ** － 色の濃さを調整します。（－ 9 ～＋ 9）
  < お買い上げ時の設定：**0**>

「ブライトネス」、「コントラスト」、「色あい」、「色の濃さ」 は ←/→ を使って調整してください。

ブライトネス　min　IIIIIIIIII..........　max　0

3　ホームメニューボタン を押して設定画面を終了します

メモ

1 本機の入力が DVD/CD 入力のときのみ表示することができます。

第 8 章：

初期設定

初期設定メニューを使う

初期設定メニューには映像出力、言語、表示、視聴制限などがあります。

画面に灰色で表示されている項目は、設定することができないということを意味します。ディスクの再生中に初期設定を選ぶことはできません。ディスクを停止してから再度選んでください。

1 DVD/CD ボタンを押します

2 ディスクが再生している場合は停止しますホームメニューボタンを押して、「初期設定」を選びます

3 ⬆/⬇/⬅/➡ で設定したい項目を選んで、決定ボタンを押します

設定項目と設定内容は以下を参照してください。[1]

映像出力

設定	項目	設定内容
テレビ画面	**4:3（レターボックス）**	従来のサイズのテレビと接続して、16:9 の映像をレターボックス方式（画面の上下に黒い帯を入れて、4:3 の画面で 16:9 の映像を再現する方式）で見たいとき。
	4:3（パンスキャン）	従来のサイズのテレビと接続して、16:9 の映像をパンスキャン方式（16:9 の映像の左右をカットして 4:3 の画面全体に映し出す方式）で見たいとき。
	16:9（ワイド）	ワイド（16:9）テレビと接続したとき。
	16:9（シュリンク）	接続しているプログレッシブ対応テレビでアスペクト比の切り換えができないとき選択します (4:3 の映像が横長 (16:9 の映像) になってしまっているが、テレビ側で 4:3 の映像に切り換えることができないとき)。 • 本機と HDMI 対応機器を接続している場合で、HDMI 画素数 **「1920 × 1080i」** または **「1280 × 720p」** を選んでいるときのみ設定することができます。この設定は HDMI 端子にのみ有効です。

メモ

1 • 表中の太字の項目はお買い上げ時の設定を表し、イタリック体の項目はその他の設定を表しています。
• ディスクによっては、テレビ画面、音声言語、字幕言語などはディスクで決められている設定になることがあります。

設定	項目	設定内容

お使いのテレビが従来サイズ(4:3)のとき		お使いのテレビがワイドテレビ(16:9)のとき	
本機の設定	映像の見えかた	本機の設定	映像の見えかた
4:3 (レターボックス)	16:9の映像 4:3の映像	16:9(ワイド)	16:9の映像 4:3の映像
4:3 (パンスキャン)	16:9の映像 4:3の映像		

- 画面の比率 (アスペクト比) の切り換えができないディスクもあります。ディスクのジャケットなどで確認してください。

設定	項目	設定内容
D2 映像出力（詳しくは「他機器の接続と設定」(43 ページ) をご覧ください）	*プログレッシブ*	プログレッシブ映像信号に対応しているテレビまたはプロジェクターのとき（詳しくはお手持ちのテレビの取扱説明書をご覧ください）。変更を行う場合は、確認画面で再び**決定ボタン**を押してください（変更しない場合は**戻るボタン**を押してください）。
	インターレース	プログレッシブ映像信号に対応していないテレビまたはプロジェクターのとき。
HDMI 画素数 接続した HDMI 機器への映像解像度 (画素数) を変更する（詳しくは「HDMI 入力端子のある機器と接続する」（45 ページ）をご覧ください）。	*1920 × 1080i（インターレース映像）*	画素数を切り換えて決定すると確認メッセージの画面が表示されますので、**「はい」**を選択してください。画素切り換え後テレビに正しく画面が出ない場合は、「HDMI 出力設定の初期化」(46 ページ) を行って画素数の設定を**「720 × 480P」**に戻してください。 • 画素の切り換え時は映像が乱れたり、出力に時間がかかる場合があります。
	1280 × 720p（プログレッシブ映像）	
	720 × 480p（プログレッシブ映像）	
	720 × 480i（インターレース映像）	
HDMI カラー 接続した HDMI 機器へのカラー出力の設定を変更する（接続した機器によってお買い上げ時の設定は変わります）。	*RGB フルレンジ*	より明るい白や深い黒を再現できます。画面の色再現が弱いときに設定します。
	RGB	フルレンジ RGB を設定したとき、白飛びや黒潰れが発生し色濃度が強すぎる場合に設定します。
	色差	HDMI 機器の標準設定となるコンポーネントビデオ出力フォーマットにしたいとき設定します。

言語

設定	項目	設定内容
音声言語	**日本語**	日本語にするとき。
DVD ビデオの音声言語を変更する。	*英語*	英語にするとき。
	その他の言語	136 言語の中から任意の音声を選びます（詳しくは「言語コード表を使って言語を選ぶ」(66 ページ) をご覧ください)。
字幕言語	**日本語**	日本語にするとき。
DVD ビデオの字幕言語を変更する。	*英語*	英語にするとき。
	その他の言語	136 言語の中から任意の字幕を選びます（詳しくは「言語コード表を使って言語を選ぶ」(66 ページ) をご覧ください)。
DVD メニュー言語	**字幕言語に連動**	**「字幕言語」**で選択している言語でメニュー画面を表示するとき。
DVD ビデオのディスクメニューに表示する言語を変更する。	*日本語*	日本語でメニュー画面を表示するとき。
	英語	英語でメニュー画面を表示するとき。
	その他の言語	136 言語の中から任意の言語を選びます（詳しくは「言語コード表を使って言語を選ぶ」(66 ページ) をご覧ください)。
字幕表示	**オン**	字幕を表示するとき。
DVD ビデオの字幕表示を変更する。	*オフ*	字幕を表示しないとき。ただし、DVD ビデオの中には強制的に字幕を表示するディスクもあります。

表示

設定	項目	設定内容
画面表示言語	**日本語**	日本語にするとき。
	English	英語にするとき。
アングルマーク表示	**オン**	テレビ画面に を表示するとき。
	オフ	テレビ画面に を表示しないとき。

オプション

設定	項目	設定内容
視聴制限	**-**	詳しくは下記の**「視聴制限」**をご覧ください。
DivX(R) VOD	**Display**	詳しくは下記の**「DivX(R) VOD」**をご覧ください。

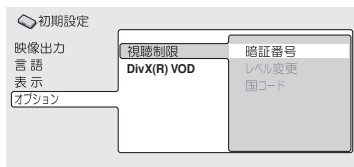
視聴制限

- お買い上げ時のレベル：オフ　お買い上げ時の暗証番号：なし　お買い上げ時の国 / 地区コード：jp(1016)

暴力シーンなどを含む DVD ビデオには、視聴制限のレベルを設けたものがあります（ディスクのジャケットなどの表示で確認できます）。本機のレベルを小さくしておくと、これらのディスクの視聴を制限することができます。ディスクによっては、視聴制限されたシーンのみを飛ばして再生するものもあります。詳しくはディスクに添付されている操作方法をご覧ください。

暗証番号を登録するには

視聴制限のレベルを変えたり、国 / 地区コードを入力するためには、暗証番号を登録してください。[1]

1 「暗証番号」を選びます

2 数字ボタンで 4 桁の暗証番号を入力して、決定ボタンを押します

暗証番号を変更するには

暗証番号を変更するには、すでに登録してある暗証番号を確認してから、新しい暗証番号を入力してください。

1 「暗証番号変更」を選んで、決定ボタンを押します

2 数字ボタンですでに登録してある暗証番号を入力し、決定ボタンを押します

3 数字ボタンで新しい暗証番号を入力し、決定ボタンを押します

視聴制限のレベル変更をするには

1 「レベル変更」を選んで、決定ボタンを押します

2 数字ボタンですでに登録してある暗証番号を入力し、決定ボタンを押します

3 新しいレベルを選んでから、決定ボタンを押します

- **⬅ ボタン**を繰り返し押すと、レベルをロックすることができます（ディスクによっては暗証番号の入力を必要とします）。また **➡ ボタン**を押すと、レベルを解除することができます。レベル 1 はロックすることができません。

国 / 地区コードを変更するには

「国 / 地区コード表」(67 ページ) を見ながら操作してください。

1 「国コード」を選んで、決定ボタンを押します

2 数字ボタンですでに登録してある暗証番号を入力し、決定ボタンを押します

3 数字ボタンで「コード」または ⬆/⬇ ボタンで「国 / 地区コード表」を入力してから、決定ボタンを押します

国 / 地区コードを変更したときは、ディスクを一度取り出してください。再度ディスクをセットすると変更が有効になります。

メモ

1 • 視聴制限されたディスクを再生すると、暗証番号の入力を求める画面が表示されることがあります。このような場合、暗証番号を入力しないと再生することができません。
• 暗証番号を忘れてしまったときは、本機を初期化して、再度設定してください（詳しくは「設定内容を初期化する」(50 ページ) をご覧ください）。

DivX(R) VOD

DivX VOD フォーマットで記録されたファイルを本機で再生する場合、DivX VOD ファイルの配信先に対して本機の登録コードが必要な場合があります。その場合は、Display で確認した登録コードをお使いください。[1]

重要

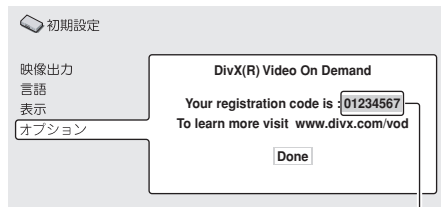
- DivX VOD フォーマットで記録されたファイルは DRM コピープロテクション（著作権保護）がかかっており、登録されたプレーヤーでのみ再生することができます。
- 本機の登録コードが承認されていないDivX VOD ファイルを再生すると**「Authorization Error」**と表示され再生することができません。
- DivX VOD ファイルには視聴回数が設定されているものがあります。そのような DivX VOD ファイルを本機で再生すると残りの視聴回数が OSD 画面に表示されます。残りの視聴回数が 0 のファイルを本機が読み込むと**「Rental Expired」**と表示され再生することができません。また、視聴回数の設定されていない DivX VOD ファイルについては、OSD 画面には残りの視聴回数は表示されず、何度でも再生することができます。

DivX VOD 登録コードを確認するには

1 「DivX(R) VOD」を選んで、➡ ボタンを押します

2 「Display」を選んで、決定ボタンを押します

登録コード

メモ

1 本機を初期化しても登録コードは失われません。

第 9 章：

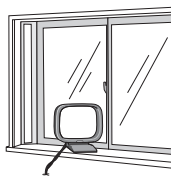
他機器の接続と設定

重要

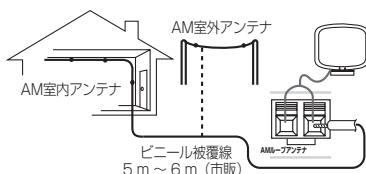
- 機器の接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には、必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。

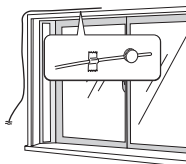
アンテナを接続する

AM ループアンテナ

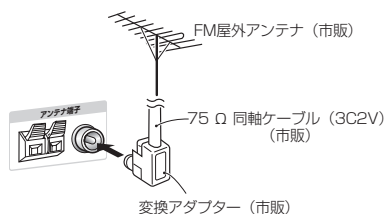
- 平らな面に置き、受信状態の最も良い方向に向けてください。
- アンテナは、本機から離して金属物と接触しない場所に置いてください。また、パソコン、テレビなどからもできるだけ離してください。ノイズの原因となります。
- 壁などに取り付ける場合は、AM 放送の受信状態が最も良い方向を見つけ、取り付け位置を決めてください。

- できるだけ窓の近くに置くなど、場所や向きを変えて受信しやすい状態を探してください。
- 付属の AM ループアンテナでは放送がよく聞こえないときは、市販の外部アンテナを接続してください。
- 付属の AM ループアンテナまたは「AM 外部アンテナをつなぐ」（下記）で説明している以外のアンテナの接続は行わないでください。

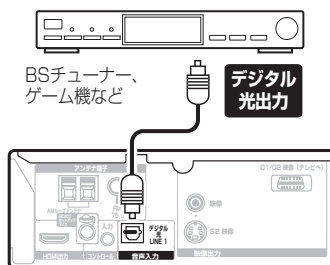
AM 外部アンテナをつなぐ

付属の AM ループアンテナを接続したまま、AM 外部アンテナ（市販のビニール被覆線）を家の中か外へ下図のように接続してください。

FM 簡易アンテナ

- 付属の FM 簡易アンテナは、たらしておいたり、丸めたままにしないでピンと張ってください。
- 受信状態の良い方向が決まったら、画びょうやテープで貼り付けます。

- 付属の FM 簡易アンテナは、FM 放送を手軽に受信するためのものです。より良い受信のためには、市販の屋外アンテナの使用をお勧めします。

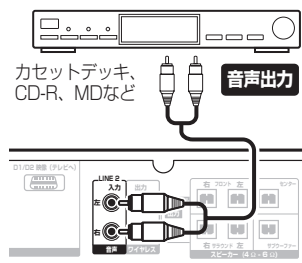
FM 屋外アンテナをつなぐ

FM 屋外アンテナを接続するには市販の同軸ケーブルと変換アダプターを使って下図のように接続してください。

他のオーディオ機器をデジタル接続する

BS/CS チューナー、ゲーム機などのデジタル出力のある機器を本機に接続し、5.1 ch サラウンド再生することができます。

- **本機の LINE1 デジタル光入力端子と接続機器のデジタル光出力端子を接続する**

市販の光デジタルケーブルで接続します。

他のオーディオ機器をアナログ接続する

テレビ、カセットデッキ、CD-R または MD などのアナログ出力のある機器を本機に接続して再生することができます。

- **本機の LINE2 入力端子と接続機器の出力端子を接続する**

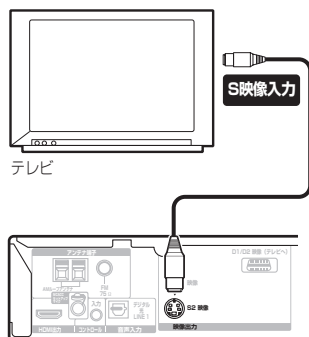
市販のオーディオコードで接続します。

S 映像入力端子のあるテレビと接続する

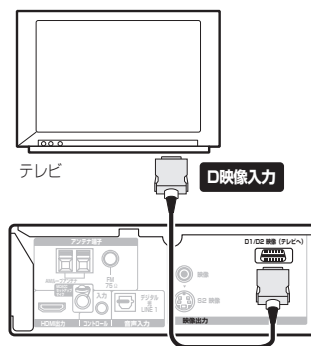
テレビに S 映像入力端子があるときは、付属のビデオコードで接続するよりも高品位な映像で楽しめます。

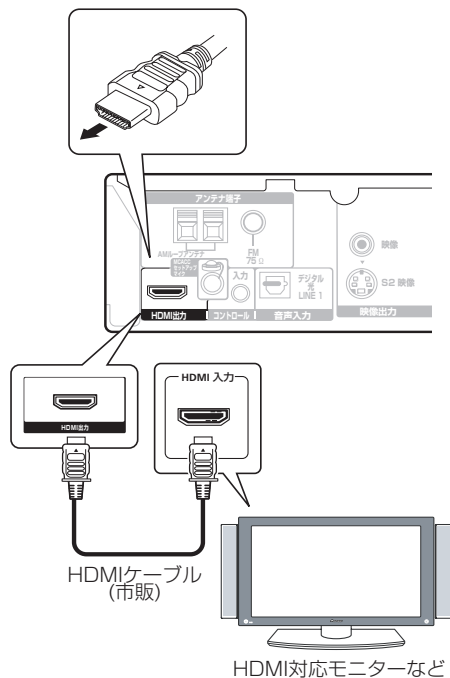
- **本機の S2 映像出力端子とテレビの S 映像入力端子を S 映像ケーブル（市販）で接続する**

端子の上にある▼と S 映像ケーブルにある▲を合わせて接続します。

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10

D 映像入力端子のあるテレビと接続する

テレビに D 映像入力端子があるときは、S 映像ケーブルで接続するよりも高品位な映像で楽しめます。本機の D1/D2 映像出力端子は、接続するテレビの D1、D2、D3 または D4 のいずれにも接続することができます。[1]

- **本機の D1/D2 映像出力端子とテレビの D 映像入力端子を D 映像ケーブル（市販）で接続する**

HDMI 入力端子のある機器と接続する

市販の HDMI ケーブルで接続します。非圧縮のデジタル映像とデジタルオーディオ音声を 1 本のケーブルで接続することができます。デジタルで伝達するため、劣化のない高品質な映像と音声を楽しむことができます。[2]

- 本機は接続した HDMI 機器の性能によらず、手動で出力内容を設定します。詳細は「**HDMI 画素数**」（39 ページ）を参照してください。

メモ

1 プログレッシブ入力に対応していないテレビと D 映像接続しているときは、映像の出力方式を **「インターレース」** に設定してください。**「プログレッシブ」** に設定してしまうと映像が乱れることがあります (38 ページ)。

2 HDMI 対応機器と接続すると表示部に解像度が表示されます。

HDMI 対応機器への出力仕様

映像（解像度）[1]

- 720 × 480 ピクセルのプログレッシブ / インターレース映像
- 1280 × 720 ピクセルのプログレッシブ映像
- 1920 × 1080 ピクセルのインターレース映像

本機の HDMI インターフェースは以下の規格に基づいて設計されています。
High-Definition Multimedia Interface Specification

HDMI、HDMI ロゴ及び High-Definition Multimedia Interface は HDMI Licensing LLC の商標文または商標登録です。

HDMI 音声出力設定

HDMI 出力端子の音声出力を切り換えます。

1　本機の電源を切り、スタンバイ状態にします

2　シフト＋設定ボタンを押してから、⬅/➡ で「HDMI OUT」を選んで、決定ボタンを押します

3　⬆/⬇ で設定したい項目を選んで、決定ボタンを押します

- **AUDIO ON**　―　音声信号を出力します。
- **AUDIO OFF**　―　音声信号を出力しません。

HDMI 出力設定の初期化

エラーメッセージ **HDMI ERR** が表示されたり、映像が映らなくなった場合は「故障かな？と思ったら」（59 ページ）をご覧ください。

それでも正常に動作しない場合は、以下の手順で初期化してみてください。

1　本機の電源を切り、スタンバイ状態にします

2　シフト＋設定ボタンを押してから、⬅/➡ で「HDMI INI」を選んで、決定ボタンを押します

HDMI 出力設定が初期化され、お買い上げ時の設定に戻ります。その他の映像出力設定については 38 ページをご覧ください。

HDMI について

HDMI とは、High-Definition Multimedia Interface の略です。PC 用ディスプレイなどで使用されている DVI(Digital Video Interface) を拡張した、次世代テレビ向けのデジタルインターフェイス規格で、非圧縮のデジタル映像とデジタルオーディオの伝送が 1 つのコネクタで行えます。このため映像と音声を別々のケーブルで接続する必要がなく、小型のコネクタケーブル 1 本での接続が可能になりました。また著作権保護技術であるデジタル画像信号の暗号化方式である HDCP にも対応しています。

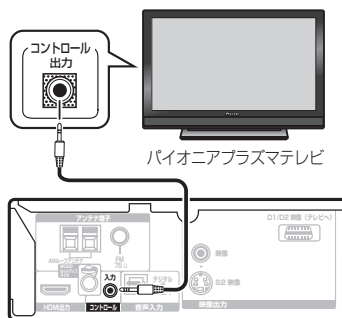
メモ

1 • お手持ちの受像機 (HDMI 機器) が上記画素に対応していないと正しく映らない場合があります。
• 本機は HDMI 機器との接続を目的として設計されています。DVI 機器に接続した場合、DVI 機器によっては正常に動作しない場合があります。

パイオニアプラズマテレビと連動動作する

本機とパイオニアプラズマテレビ[1] を SR+ ケーブル[2] で接続することで、プラズマテレビの入力が連動して切り換わったり、プラズマテレビの音量を消音するなどのシステム連動動作を実現します。

• 本機のコントロール入力端子[3] とプラズマテレビのコントロール出力端子を SR+ ケーブル（別売）で接続します[4]

接続したあと、システム連動動作をさせるためには、本機とプラズマテレビの電源を入れてから、以下の「連動モードの設定」および「連動モードの実行」を行ってください。

連動モードの設定

1 シフト+ SR+ ボタンを押します

2 ⬅/➡ で「SETUP」を選んで決定ボタンを押します

3 ⬆/⬇ で音量連動モードを選びます

- **VOL.C OFF** – プラズマテレビの音量は本機に連動しません。
- **VOL.C ON** – 本機の入力（DVD や LINE などの入力）を切り換えたときプラズマテレビの音量を自動的に消音します。[5]

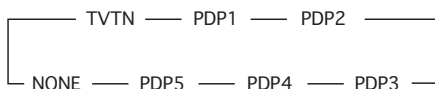
4 ⬅/➡ で連動させる本機の入力（DVD、USB または LN1/2（LINE1/2））を選びます

各入力の現在の設定内容が表示されます。

5 ⬆/⬇ でプラズマテレビの映像入力を選びます

押すたびにプラズマテレビの入力が以下のように切り換ります。

（プラズマテレビの入力数が 5 つの場合）

TVTN — PDP1 — PDP2 — PDP3 — PDP4 — PDP5 — NONE — (TVTN)

- NONE のときは入力切り換えは連動しません。
- TVTN はプラズマテレビの TV チューナー（アナログ放送）を表しています。デジタル放送を選ぶときは、本機の入力を切り換えてからプラズマテレビの放送をアナログ放送からデジタル放送に切り換えてください。
- PDP1 ～ PDP5 はプラズマテレビのビデオ入力 1 ～ 5 に相当し、接続しているプラズマテレビにより数が変わります。またいずれかの入力が PC 入力になっているプラズマテレビもあります。

メモ

1 SR+ に対応しているプラズマテレビは 2003 年以降に発売されたモデルのみです。
2 専用の SR+ ケーブル（パイオニア部品番号：ADE7095）が必要となります。詳しくはパイオニア部品受注センターへご連絡ください（裏表紙参照）。市販の 4 極ミニジャック（両端とも）付コードでも使用できます。
3 コントロール入力端子をはじめて使用する際は、まずラベルをはがしてからお使いください。このラベルはケーブルの誤差し防止用です。
4 SR+ ケーブルを本機のコントロール入力端子に接続すると、本機のリモコン受光部は信号を受け付けません。リモコン操作は電源が入っている、またはスタンバイ状態のプラズマテレビに向けて行ってください。
5 再度プラズマテレビの音を出したいときはプラズマテレビの音量を上げてください。

- 本機の各入力（DVD/CD、USB、LINE1/2）について設定することができます。たとえば、本機をプラズマテレビの映像入力2に接続している場合は、DVD PDP2と設定してください。

6 決定ボタンを押して連動モードの設定を終了します

連動モードの実行

1 シフト+ SR+ ボタンを押します

2 ⬅/➡ で SR+ ON を選んで、決定ボタンを押します

連動モードを解除したいときは**「SR+ OFF」**を選びます。

- SR+ ケーブルを抜いたり、本機の電源を切っても**「SR+ ON」**の設定は解除されません。

コントロール出力端子の付いている機器と接続する

コントロール端子の付いた複数のパイオニア機器を、本機のリモコン受光部を使って集中コントロールすることができます（システムコントロール）。

コントロール端子の接続をする場合は、必ずオーディオコード（市販）の接続もしてください。光デジタルケーブルの接続だけでは、システムコントロールは正しく動作しません。

- **他機器のコントロール入力端子と本機のコントロール出力端子を接続してください。**

リモコン受光部を持たない機器や、受光部が信号を受けられないところに設置した機器もリモコン操作が可能になります。

- コントロール入力端子（CONTROL IN）にプラグを接続した機器のリモコン受光部は信号を受け付けません。
- 上記の接続に加えて、本機とプラズマテレビを SR+ ケーブルで接続しているときは、リモコンはプラズマテレビに向けて操作してください。

接続には市販のモノラルミニプラグコード（抵抗なし）をお使いください。

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10

第 10 章:
その他

ダイナミックレンジコントロール

ダイナミックレンジとは再生能力を表す用語で、どのくらい小さな音からどのくらい大きな音までをきちんと（小さな音はノイズに埋もれずに、大きな音は歪まずに）再生できるかを数値（dB）で表したものです。ダイナミックレンジコントロールとは、ダイナミックレンジを圧縮する機能です。音量を下げて映画を楽しむときなどは、ダイナミックレンジを圧縮すると微小な音も聞きやすくなり、映画をより一層楽しむことができます。[1]

1　シフト＋設定ボタンを押してから、⬅/➡ で「DRC」を選んで、決定ボタンを押します

2　⬆/⬇ で項目を選んだあと、決定ボタン押します

- **DRC OFF** － ダイナミックレンジを圧縮しません（大きい音量のときに使用）。
- **DRC MID** － ダイナミックレンジを少し圧縮します。
- **DRC HIGH** － ダイナミックレンジを最も圧縮します（小さい音を増大させて、大きい音を減少させます）。

表示全体の明るさをかえる

表示部の明るさを、部屋の明るさに応じて変えることができます。

1　シフト＋設定ボタンを押してから、⬅/➡ で「DIMMER」を選んで、決定ボタンを押します

2　⬆/⬇ で調整したあと、決定ボタンを押します

- **LIGHT** － 通常の明るさに設定します。
- **DARK** － 暗い設定にします。[2]

スリープタイマー設定

約 1 時間後に、自動的に電源が切れます。音楽を聞きながら眠ったりするときに便利です。[3]

• スリープボタンを繰り返し押して、項目を選びます

以下のどちらかを選んで、**決定ボタン**を押します。

- **SLP ON** － スリープタイマーを設定します。
- **SLP OFF** － スリープタイマーを解除します。

「SLP ON」を設定後に、**スリープボタン**を再度押すと、電源が切れるまでの時間を確認することができます。1 目盛りは（残り）12 分を表します。

SLP - - - - -

メモ

1 • ドルビーデジタル音声や DTS 音声にのみ効果があります。
• 再生しているディスクによっては、効果の少ないものもあります。
2 **DARK** を選ぶと、本体前面の POWER インジケーターは消灯します。
3 スリープ動作中は表示部が暗くなり、本体前面の POWER インジケーターが消灯します。

その他のシステム設定をする

本機がスタンバイ時に設定可能なシステム設定項目が以下に記載されています。設定に関する詳しい説明は各項目を参照してください。

1 本機の電源を切り、スタンバイ状態にします

2 シフト+設定ボタンを押してから、⬅/➡ で調整したい設定項目を選んで、決定ボタンを押します

設定可能な項目が表示部に表示されます。

3 ⬆/⬇ で調整したあと、決定ボタンを押して終了します

デモ表示設定

電源コードをコンセントに差し込んだときなど、表示部にいろいろな表示を自動的に行うことを、デモ表示といいます。[1]

- **DEMO ON**[2] – デモ表示を設定します。
- **DEMO OFF** – デモ表示を解除します。

CD タイプの設定

再生する CD の種類を選ぶことで、本機の設定を最適な環境にします。本機で DTS-CD を再生しない場合は、この設定は必要ありません。

- **NORMAL** – DTS-CD を再生すると曲頭部分でノイズが聞こえることがありますが、通常の CD の再生ではノイズが聞こえるようなことはありません。
- **DTS-CD** – DTS-CD を再生してもノイズが聞こえることはありませんが、通常の CD を再生すると曲頭部分が欠けて聞こえることがあります。

キーロック機能

小さなお子さまのいる家庭でのいたずら防止に便利な機能です。

- **LOCK OFF** – 本体の操作ボタンが使用できるようになります。
- **LOCK ON** – 本体の操作ボタンがすべて使用できなくなります。

設定内容を初期化する

設定した内容をお買い上げ時の状態に戻します。操作はフロントパネルのボタンで行います。

- **電源オン中に ►/II USB ボタンを押しながら ⏻ STANDBY/ON ボタンを押します**

電源がオフになります。再度電源をオンにすると設定内容がすべて初期化された状態になります。

再生できるディスクとフォーマットについて

本機は NTSC（日本のテレビ方式）に適合していますので、ディスクやパッケージに「NTSC」と表示されているディスクをご使用ください。ディスクが本機で再生できるかどうかはディスクやディスクのパッケージにあるロゴを見てください。書き込み可能な CD や DVD など、ディスクによっては再生できないものもあります。[3] 詳しくは「ディスクとファイルの互換性一覧」（52 ページ）をご覧ください。

メモ

1 • 5 分以上何も操作がなかった場合、デモ表示を行います。
• デモ表示中に本体またはリモコンのいずれかのボタンを押すと、デモ表示を一時的に解除します。
• DVD/CD または USB 入力時のみデモ表示を行います。

2 **DEMO ON** にすると、DVD/CD 入力に切り換わり、デモ表示を開始します。

3 レコーダー、またはパソコンで記録したディスクがディスクの特性、傷、汚れ、プレーヤーのレンズの汚れ、結露などにより、再生できないことがあります。

DVDビデオ　DVD-R　DVD-RW

CD　ビデオCD　CD-R　CD-RW

フジカラーCD

- コダックピクチャー CD も互換性があります。
- 本機は DVD+R/+RW を再生することができます。
- は富士フイルム株式会社の商標です。
- は DVD フォーマットロゴライセンシング ⓒ の商標です。
- **コピーコントロール CD について**
  当製品は音楽 CD 規格に準拠して設計されています。CD 規格外ディスクの動作保証および性能保証は致しかねます。

DualDisc の再生について

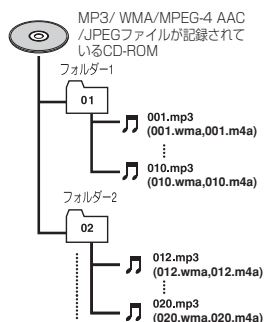
「DualDisc」は、片面に DVD 規格準拠の映像やオーディオが、もう片面に CD 再生機での再生を目的としたオーディオがそれぞれ収録されています。

DVD 面ではないオーディオ面は、一般的な CD の物理的規格に準拠していないために、再生できないことがあります。

「DualDisc」の DVD の面は再生可能です。ただし、DVD オーディオは再生できません。

なお、「DualDisc」の仕様や規格などの詳細に関しましては、ディスクの発売元または販売元にお問い合わせください。

フォルダー名 / ファイル名の表示について

WMA/MP3/MPEG-4 AAC のフォルダー / トラックの名前や、JPEG のフォルダー / ファイルの名前を表示することができます (半角英数字で入力された文字のみ)。半角英数字以外で入力されているフォルダー / トラック / ファイルの名前は [F_001]/[T_001]/[FL_001] のように表示されることがあります。

DVD+R/DVD+RW の互換性について

本機は DVD ビデオフォーマットで記録された DVD+R/+RW ディスクを再生することができます。ファイナライズしていない DVD ビデオフォーマットの DVD+R/+RW ディスクを再生することはできません。また、録画時の編集内容どおりには再生されないことがあります。

ディスクとファイルの互換性一覧

メディア	互換性のあるフォーマット
CD-R/-RW	• 音楽 CD フォーマット、ビデオ CD フォーマットで記録された CD-R/-RW ディスク ただし、ディスクによっては「再生できない」、「ノイズが出る」、または「音が歪む」などが起きることがあります。 • ISO 9660 レベル 1/ レベル 2 の CD-ROM ファイルシステム、および拡張フォーマット（Joliet、Romeo）に準拠して記録したディスクを使用してください。 • マルチセッションには対応していません。 • ファイナライズしていないディスクを再生することはできません。詳しくはレコーダーの取扱説明書をご覧ください。
DVD-R/-RW	• DVD ビデオフォーマット（ビデオモード）または VR モードで記録された DVD-R/-RW/-R DL（2 層ディスク）ディスク ただし、ディスクによっては「再生できない」、「ノイズが出る」、または「音が歪む」などが起きることがあります。 • UDF Bridge（UDF ブリッジ）フォーマットに準拠して記録したディスク • DVD レコーダーで編集 (シーン消去など) をした箇所を再生すると、そのつなぎ目で一瞬映像が止まります。これは故障ではありません。 • マルチボーダーには対応していません。 • ファイナライズしていないディスクを再生することはできません。詳しくはレコーダーの取扱説明書をご覧ください。また、VR モードで記録された DVD-R/RW を本機にセットすると「DVD VR」と表示されます。
パソコンで作成されたディスク	• パソコンで記録したディスクは、アプリケーションの設定、および環境によって再生できないことがあります。正しいフォーマットで記録してください（詳細はアプリケーションの発売元にお問い合わせください）。 • パケットライト方式で記録されたディスクは再生できません。
圧縮オーディオファイル	• Windows Media Audio（WMA）、MPEG1 オーディオレイヤー 3（MP3）、MPEG-4 AAC • サンプリング周波数は、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz です。 • WMA/MP3 のビットレートは 128 kbps 以上を推奨します。 • MPEG-4 AAC のビットレートは、16 kbps ～ 320 kbps です。 • WMA/MP3/MPEG-4 AAC の可変ビットレート（VBR: Variable Bit Rate）には対応していません。 • WMA のロスレスエンコーディング（loss-less encoding）には対応していません。

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10

メディア	互換性のあるフォーマット
	• DRM コピープロテクト（著作権保護）のかかったファイルは再生できません。 • 「.mp3」または「.MP3」、「.wma」または「.WMA」、「.m4a」という拡張子がついたファイルのみ再生することができます（本機は WMA/MP3/MPEG-4 AAC ファイルのみ再生することができます）。 • 1 枚のディスクに最大 299 フォルダーまで、各フォルダーごとにフォルダーとトラックの数の合計で 648 まで認識・再生することができます。ただし、フォルダーの構成によっては、すべてのフォルダー、トラックが認識・再生できない場合があります。
JPEG ファイル	• フジカラー CD、コダックピクチャー CD、または CD-R/CD-RW/CD-ROM に記録されている JPEG ファイルを再生することができます (記録方法などによって再生できないこともあります)。 • 総ピクセル数が 3072 × 2048 ピクセル以下のベースライン JPEG ファイル、および Exif 2.2* に準拠した JPEG ファイルの静止画再生に対応しています。 * デジタルスチルカメラ用画像ファイルフォーマット規格 (Exif)Ver2.2、JEIDA-49-1998（社）電子情報技術産業協会 JEITA • プログレッシブ JPEG には対応していません。 • 「.jpg」または「.JPG」という拡張子がついた JPEG ファイルの静止画像を表示することができます。 • 1 枚のディスクに最大 299 フォルダーまで、各フォルダーごとにフォルダーとトラックの数の合計で 648 まで認識・再生することができます。ただし、フォルダーの構成によっては、すべてのフォルダー、トラックが認識・再生できない場合があります。

DivX について DIVX®

DivX は DivX, Inc. が開発したメディア技術です。DivX のメディアファイルには圧縮された画像データが含まれます。本機は DVD-R/DVD-RW/CD-R/CD-RW/CD-ROM ディスクに記録された DivX ファイルを再生することができます。また、DivX ファイルはメニューや複数の字幕、音声の切り替えといった高度な再生機能をつけることも可能です。DivX ファイルは DVD ビデオのようにファイルを「タイトル」と呼びます。DivX ファイルはタイトルのアルファベット順に再生されますので、ディスクに記録する際はタイトル名のつけ方にご注意ください。

DivX、DivX Certified、および関連するロゴは DivX, Inc. の商標です。これらの商標は、DivX, Inc. の使用許諾を得て使用しています。

DivX ビデオの互換性

• DivX® Certified 製品。

• 標準の DivX® メディアファイル再生機能が付いた DivX® ビデオを再生（DivX® 6 も含むすべてのバージョンに対応）。[1]

メモ

1 DivX ファイルは 4 GB 以上は再生できません。

- 「.avi」または「.divx」という拡張子がついた DivX ファイルのみ再生することができます。「.avi」という拡張子は MPEG-4 に準拠していますが、 MPEG-4 の中でも DivX ファイルでない場合があります。その場合は本機では再生することができませんのでご注意ください。

MPEG-2 AAC について

MPEG-2 オーディオの標準方式のひとつで、BS デジタル放送や地上デジタル放送で採用されている音声符号化規格です。低ビットレートでかつ高音質を確保できる点が特長で、番組内容によりマルチチャンネル設定が可能なフォーマットです。以下が米国パテントナンバーです。

08/937,950	5 297 236
5848391	4,914,701
5,291,557	5,235,671
5,451,954	07/640,550
5 400 433	5,579,430
5,222,189	08/678,666
5,357,594	98/03037
5 752 225	97/02875
5,394,473	97/02874
5,583,962	98/03036
5,274,740	5,227,788
5,633,981	5,285,498
5,481,614	5,490,170
5,592,584	5,264,846
5,781,888	5,268,685
08/039,478	5,375,189
08/211,547	5,581,654
5,703,999	05-183,988
08/557,046	5,548,574
08/894,844	08/506,729
5,299,238	08/576,495
5,299,239	5,717,821
5,299,240	08/392,756
5,197,087	

MPEG-4 AAC について

AAC とは「Advanced Audio Coding」の略で、MPEG-2 および MPEG-4 で使用される音声圧縮技術に関する基本フォーマットです。

AAC データは、作成に使用したアプリケーションによってファイル形式と拡張子が異なります。本機では、iTunes® を使用してエンコードされた、拡張子が「.m4a」の AAC ファイルの再生に対応しています。ただし、DRM コピープロテクト（著作権保護）のかかったファイルやエンコードする iTunes のバージョンによっては再生できないことがあります。

iTunes MUSIC STORE で購入された楽曲は、CD-R/-RW や USB メモリーに記録して再生することはできません。

iTunes は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。

WMA について

本機は WMA データの再生に対応しています。WMA とは「Windows Media® Audio」の略で、米国 Microsoft Corporation によって開発された音声圧縮技術です。WMA データは、7, 7.1,Windows Media Player for Windows XP、または Windows Media 9 Series を使用してエンコードすることができます。

WMA ファイルは、米国 Microsoft Corporation より認証を受けたアプリケーションを使用してエンコードしてください。もし、認証されていないアプリケーションを使用すると、正常に動作しないことがあります。

Windows Media は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

ディスクの地域番号（リージョンナンバー）について

DVD プレーヤーと DVD ビデオディスクには、発売地域ごとに地域番号（リージョンナンバー）が設定されています。再生するディスクに記載された地域番号が再生機器に設定された番号を含まない場合、そのディスクを再生することはできません。本機（日本向け）の再生可

能地域番号は 2 番で、ディスクに記載された地域番号が 2 番を含むか「ALL」となっている場合に再生が可能です。リージョン NO. の違う DVD ディスクを再生すると**「本機とディスクのリージョン NO.（地域番号）が違うので再生できません」**とテレビ画面に表示されます。

タイトルとチャプターについて

DVD ではディスクをタイトルという単位で分け、さらにタイトルをチャプターという単位で分けています

DVD/CD ディスクの取り扱いかた

保管

必ずケースに入れ、高温多湿の場所や直射日光の当たる場所・極端に温度の低い場所を避けて垂直に保管してください。ディスクに付いている注意書は必ずお読みください。

ディスクの取り扱い

- ディスクに指紋やホコリが付くと、再生ができなくなることがあります。このようなときはクリーニングクロスなどで内周から外周方向へ軽く拭いてください。そのとき、汚れたクリーニングクロスは使用しないでください。

- ベンジン、シンナーなどの揮発性の薬品は使用しないでください。また、レコードスプレー・帯電防止剤なども使用できません。
- 汚れがひどいときは、柔らかい布を水に浸してよく絞ってから汚れを拭き取り、そのあと乾いた布で水気を拭き取ってください。
- 損傷のあるディスク（ひびやそりのあるディスク）は使用しないでください。

- ディスクの信号面にキズや汚れを付けないでください。
- ディスクに紙やシールなどを貼り付けないでください。ディスクにそりが発生し、再生ができなくなる恐れがあります。また、レンタルディスクはラベルが貼ってある場合が多く、のりなどがはみ出している恐れがありますので、のりなどのはみ出しがないことを確認してからご使用ください。

- ディスクを 2 枚重ねて再生しないでください。
- 詳しいディスクの取り扱いについては、ディスクの使用上の注意をご覧ください。

特殊な形のディスクについて

本機では、特殊な形のディスク（ハート型や六角形など）は再生できません。故障の原因になりますので、そのようなディスクはご使用にならないでください。

レンズのクリーニングについて

レンズにゴミやホコリがたまると、音飛びしたり画像が乱れたりすることがあります。このような場合は、「保証とアフターサービス」（76 ページ）をお読みのうえ、清掃をご依頼ください。市販されているクリーニングディスクを使用するとレンズを破損する恐れがありますので、ご使用にならないでください。

使用上のご注意

注 意

この製品はJIS C 6802規格の基で評価されたクラス1レーザ製品ですが、内部にはクラス1のレベルを超える危険なレーザ放射があります。
分解や改造などは絶対に行わないでください。

危険なレーザ放射に接する恐れのある部分には、以下の注意文表示があります。

注意 ここを開くと CLASS 3B の可視レーザ光及び不可視レーザ光が出ます。ビームを直接見たり、触れたりしないこと。
ARW7316–A

クラス1
レーザ製品

D3-7-12-5-5_Ja

設置する場所

- 組み合わせて使用するテレビやステレオシステムの近くの安定した場所を選んでください。
- テレビやカラーモニターの上に本機を設置しないでください。カセットデッキなど、磁気の影響を受けやすい機器とは離して設置してください。

次のような場所は避けてください

- 直射日光のあたる所
- 湿気の多い所や風通しの悪い所
- 極端に暑い所や寒い所
- 振動のある所
- ホコリの多い所
- 油煙、蒸気、熱があたる所（台所など）

上に物をのせない

本機の上に物をのせないでください。

熱を受けないように

本機をアンプなど、熱を発生する機器の上にのせないでください。ラックに入れる場合はアンプや他のオーディオ機器から出る熱を避けるため、アンプよりできるだけ下の棚に入れてください。

本機を使わないときは電源を切る

テレビ放送の電波状態により、本機の電源を入れたままテレビをつけると画面にしま模様が出る場合がありますが、本機やテレビの故障ではありません。このような場合は本機の電源を切ってください。ラジオの音声の場合も同様にノイズが入ることがあります。

本機を移動する場合

本機を移動する場合は、必ずディスクを取り出しディスクテーブルを閉じてください。さらに本体の ⏻ **STANDBY/ON**(またはリモコンの ⏻ **電源ボタン**）を押し、表示窓の **「GOOD BYE」** 表示が消えてから電源コードを抜いてください。[1] ディスクを内部に入れたまま移動すると、故障の原因となります。

メモ

1 本体の電源が入っているとき、強制的に電源コードを抜く、または停電などが起きると、設定した内容が消えてしまうことがあります。

電波に関するご注意

- 本機は盗聴防止機能を搭載しておりますが、傍受（無線通信内容を第三者が別の受信機で故意または偶然に受信すること）にご注意ください。本機は電波を使用している関係上、第三者が故意に傍受するケースも考えられます。機密を要する重要な通信や人命にかかわる通信には使用しないでください。
- 本機は電波法に基づく小電力データ通信システム無線局設備として、技術基準適合証明を受けています。したがって本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。また、本機は日本国内のみで使用できます。

本機は、2.4 GHz の周波数帯の電波を利用しています。この周波数の電波は、下記 1 に示すようにいろいろな機器が使用しています。また、お客様に存在がわかりにくい機器として下記 2 に示すような機器もあります。

1　2.4 GHz を使用する主な機器の例

- コードレスフォン
- コードレスファクシミリ
- 電子レンジ
- 無線ルーター
- ワイヤレス AV 機器（当社ワイヤレススピーカーを含む）
- ゲーム機のワイヤレスコントローラー
- マイクロ波治療機器類
- Bluetooth 対応機器

2　存在がわかりにくい 2.4 GHz を使用する主な機器の例

- 万引き防止システム
- アマチュア無線局
- 工場や倉庫などの物流管理システム
- 鉄道車両や緊急車両の識別システム

これらの機器と本システムを同時に使用すると、電波の干渉により、音がとぎれて雑音のように聞こえたり、音が出なくなることがあります。このようなときは、本機の TUNED インジケーターが点滅または消灯しますが、電波干渉によるもので本機の故障ではありません。

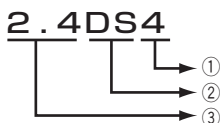
受信状況の改善方法としては以下の方法があります。

- 電波を発生している相手機器の電源を切る
- 干渉している機器の距離を離して設置する
- トランスミッターのチャンネル選択ボタンで干渉されない他のチャンネルを選択する

次の場所では本機を使用しないでください。ノイズが出たり、送信 / 受信ができなくなる場合があります。

- 同じ周波数帯（2.4 GHz）を利用する無線通信機器である Bluetooth、無線 LAN、また電子レンジなどの機器の磁場、静電気、電波障害が発生するところ。（環境により電波が届かない場合があります）
- ラジオから離してお使いください。（ノイズが出る場合があります）
- テレビにノイズが出た場合、トランスミッターがテレビ、ビデオ、BS チューナー、CS チューナーなどのアンテナ入力端子に影響を及ぼしている可能性があります。トランスミッターをアンテナ入力端子から遠ざけて設置してください。

本機は、技術基準適合証明を受けていますので、以下の事項を行うと法律で罰せられることがあります。

- 分解 / 改造すること。
- 本機に貼ってある証明ラベルをはがすこと。

①「4」 想定される与干渉距離(約40 m)を表します
②「DS」 変調方式を表します
③「2.4」 GHz帯を使用する無線設備を表します

- 本機の使用する周波数帯域（2.4 GHz）では、無線通信機器である Bluetooth、無線 LAN、また電子レンジなどの機器の他、工場、製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する）および、特定小電力無線局が同じように利用して運用されています。

本機を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局、および特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。

万一、本機から移動体識別用の構内無線局に対して電波障害の事例が発生した場合、すみやかにその場での本機の使用を中断してください。

使用範囲について

- ご家庭内での使用に限ります (通信の環境により伝送距離が短くなることがあります)。

次のような場合、電波状態が悪くなったり電波が届かなくなることが原因で、音声がとぎれたり停止したりします。

- 鉄筋コンクリートや金属の使われている壁や床を通して使用する場合。
- 大型の金属製家具の近くなど。
- 人混みの中や、建物障害物の近くなど。
- 同じ周波数帯（2.4 GHz）を利用する無線通信機器である Bluetooth、無線 LAN、また電子レンジなどの機器の磁場、静電気、電波障害が発生するところ。
- 集合住宅（アパート・マンションなど）にお住まいで、お隣で使用している電子レンジ設置場所が本機に近い場合。尚、電子レンジは、使用していなければ電波干渉はおこりません。
- 複数台の当社のワイヤレススピーカーを同じ場所、同じチャンネルで使用した場合。

電波の反射について

- ワイヤレススピーカーに届く電波には、トランスミッターから直接届く電波（直接波）と、壁や家具、建物などに反射してさまざまな方向から届く電波（反射波）があります。これにより、障害物と反射物とのさまざまな反射波が発生し、電波状態の良い位置と悪い位置が生じ、音声がうまく受信できなくなることがあります。このようなときは、ワイヤレススピーカーの場所を少し動かしてみてください。トランスミッターとワイヤレススピーカーの間を人間が横切ったり、近づいたりすることによっても、反射波の影響で音声がとぎれたりすることがあります。

 重要

- お客さま、または第三者使用によるこの製品の使用によって受けられた損害については、法令上賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

安全にお使いいただくために

- 高精度な制御や微弱な信号を取り扱う電子機器の近くでは使用しないでください。電子機器に誤動作するなどの影響を与え、事故の原因となる恐れがあります。

ご注意いただきたい電子機器の例

補聴器、ペースメーカー、その他医療用電気機器、火災報知器、自動ドア、その他自動制御機器など。

ペースメーカー、その他医療用電気機器をご使用される方は、該当の各医療用電気機器メーカーもしくは販売業者に電波による影響についてご確認ください。

- 航空機器や病院など、使用を禁止された場所では使用しないでください。
電子機器や医療用電気機器に影響を与え、事故の原因となる恐れがあります。医療機関の指示に従ってください。

故障かな？と思ったら

故障かな？と思ったら以下を調べてみてください。意外なミスが故障と思われています。また、本機以外の原因も考えられます。ご使用の他の機器および同時に使用している電気機器もあわせてお調べください。以下の項目を調べても直らないときは、修理を依頼してください。

- 静電気など、外部からの影響により本機が正常に動作しない場合があり電源コードを一度抜いて再度差し込むことにより正常に動作します。

すべてに共通

症状	改善策
電源が入らない、または電源が突然オフになった。 （再び電源を入れたときにエラーメッセージが表示される場合があります）	• 電源コードを抜かずに、1 分後に再び ⏻ **電源ボタン**を押して電源を入れてみてください。 • スピーカーコードがショート（接触）していないか確認してください。 • スピーカーコードの芯線をしっかりとねじり、もう一度スピーカー端子に接続し直してください。 • 各スピーカーが正しく接続されているか、もう一度確認してください。 • 本体の周りに十分なスペースが空いているか確認してください。風通しが良くなるように設置を変えてみてください。 • 音量を下げて使用してみてください。 • 上記を行っても症状が改善されないときは、最寄りの弊社サービスステーションに連絡してください。
音が出ない。	• すべてのコードが正しく接続されているか確認してください（詳しくは別添の「システムセットアップガイド」をご覧ください）。 • **消音ボタン**を押して、ミュートを解除してください。 • 音量がゼロになっていないか確認してください。 • ヘッドホンが挿入されていないか確認してください。
ワイヤレスまたはセンタースピーカーから音が出ない。	• スピーカーの出力レベルを調整してください (36 ページ)。 • TUNER 入力時はサラウンド再生できません。 • ステレオ音声出力（2.1ch）になっていないことを確認してください（詳しくは「サラウンド再生」(19 ページ) をご覧ください)。 • ディスクの再生音声は、マルチチャンネル音声を選択してください。 • テストトーンを出力してみてください（詳しくは別添の「システムセットアップガイド」をご覧ください)。 • スピーカーが正しく接続されているか確認してください（詳しくは別添の「システムセットアップガイド」をご覧ください)。

症状	改善策
	• 96 kHz リニア PCM 信号を入力している場合、ステレオで再生することがあります。 • ワイヤレススピーカーの **TUNED インジケーター**が点灯しているか確認してください。点灯していないときは、トランスミッターの**チャンネル選択ボタン**を押してチャンネルを切り換えるかトランスミッターの位置を動かしてみてください。 • ワイヤレスモードが **「W.OFF」**または**「W.STEREO」**になっていないか確認してください。**「W.NORMAL」「W.WIDE」「W.LEFT」「W.RIGHT」**のいずれかに設定してみてください (21 ページ)。 • 本体の音量がゼロになっていないか確認してください。ワイヤレススピーカーの音量は本体側で調節します。
リモコンがきかない。	• 新しい電池に換えてください（詳しくは別添の「システムセットアップガイド」をご覧ください)。 • 7 m 以内、左右 30°以内で、リモコンを本機に向けて操作してください。 • 本機とリモコンとの間の障害物を取り除くか、操作する場所を移動してください。 • 蛍光灯をリモコン受光部から離してください。 • MCACC セットアップ用マイクをコントロール端子に接続していないかどうか確認してください。 • SR+ ケーブルを本機のコントロール入力端子に接続すると、本機のリモコン受光部は信号を受け付けません。リモコン操作をするときはリモコンをプラズマテレビのリモコン受光部に向けてください。
本体の操作ボタンを押しても動作しない。	• キーロック機能が、オンに設定されていないか確認してください。オンに設定されている場合は、オフにしてください。
表示部に**「TRAYLOCK」**と表示され、ディスクテーブルが開かない。	• **⏏ OPEN/CLOSE ボタン**を 8 秒以上押すと、ディスクテーブルを開閉することができます。
表示部に**「SND.DEMO」**と表示され、本機の操作ができない。	• 本体の **■ ボタン**を 5 秒間押し続けてください。ディスクテーブルが自動的に開いてサウンドデモモードが解除されます。
設定した内容が消えてしまった。	• 本体の電源が入っているとき、強制的に電源コードを抜く、または停電などが起きると、設定した内容が消えてしまうことがあります。電源コードは、必ず本体の ⏻ **STANDBY/ON**、またはリモコンの ⏻ **電源ボタン**を押して、表示窓の**「GOOD BYE」**表示が消えてから抜いてください。特に他機器の AC アウトレットから電源コードを接続しているときはご注意ください。

DVD/CD関係

症状	改善策
ディスクテーブルを閉めても自動的に出てきたり、再生できない。	• ディスクをクリーニングしてください。また、ディスクを正しくセットしてください。 • リージョン NO. の違う DVD ディスクを再生すると **「本機とディスクのリージョン NO.(地域番号)が違うので再生できません」** とテレビ画面に表示されます。 • ディスクを表裏逆に入れているなら、ディスクを正しくセットしてください。
画面が止まり、操作ボタンを受け付けない。	• 本体の内部が結露している場合、しばらく放置してください。 • ■ **ボタン**を押してディスクを停止し、► **ボタン**を押してもう一度再生してください。 • 一度電源を切ってから、再度電源を入れてみてください。
映像が映らない。または白黒に表示される。	• ビデオコードは十分差し込まれているか確認して、しっかりと差し込んでください。 • お手持ちのテレビの取扱説明書を参照して、設定を確認してください。 • プログレッシブ入力に対応していないテレビと D 映像接続しているときに **「プログレッシブ」** を選択していると映像が正常に出力されません。映像が何も表示されなくなった場合は付属のビデオコードで接続してから、映像出力方式を **「プログレッシブ」** から **「インターレース」** に変更してください(39 ページ)。 • 接続しているビデオコードが断線していないか確認してください。断線している場合は、ビデオコードを変えて接続してみてください。
DVD の音声や字幕が切り換わらない。	• ディスクに複数の字幕や音声が記録されていない可能性があります。DVD ディスクのジャケットを確認してください。 • リモコンの**音声ボタン**や**字幕ボタン**で切り換わらない DVD ディスクがあります。そのときは、DVD のメニュー画面で切り換えてください。
画面が縦または横に伸びる、またはアスペクトが切り換わらない。	• テレビ画面とのアスペクト比の設定が違っています。テレビ画面のアスペクト比の設定をしてください (詳しくは「映像出力」(38 ページ) をご覧ください)。
DVD 映像を VTR に録画したり、VTR を通して再生すると再生画像が乱れる。	• 本機はアナログコピープロテクト方式のコピーガードに対応しています。ディスクによってはコピー禁止信号が入っているものがあり、そのようなディスクを VTR を通して再生したり、VTR に録画して再生するとコピーガードシステムにより正常に再生されません。

症状	改善策
DVD 再生中に画像が乱れる、または暗い。	• 本機はアナログコピープロテクト方式のコピーガードに対応しています。ディスクによってはコピー禁止信号が入っているものがあり、そのようなディスクを再生した場合、テレビによっては一部画像に横じまが入るなどの症状が出るものもありますが、故障ではありません。 • ディスクは再生機器の機能に合わせて再生します。これにより、再生時に画面がわずかに振動したり暗くなったりすることがあるかもしれません。これらの問題は、主にディスクとディスクに録画された項目の違いのためであって、故障ではありません。
DVD と CD で音量差を感じる。	• これはディスクの記録方式の違いによるものです。故障ではありません。
CD-ROM が認識されない。	• 記録した CD-ROM が ISO9660 フォーマットに準拠していることを確認してください。詳しくは、「ディスクとファイルの互換性一覧」(52 ページ) で互換性を確認してください。
本機をビデオ内蔵テレビに接続して DVD を再生すると映像が乱れる。	• ビデオ内蔵テレビの機種によっては、コピーガードの働きにより正常に再生されないことがあります。詳しくは、お使いのテレビメーカーにお問い合わせください。
DVD-ROM が認識されない。	• 記録した DVD-ROM が UDF Bridge（UDF ブリッジ）フォーマットに準拠していることを確認してください。詳しくは、「ディスクとファイルの互換性一覧」(52 ページ) で互換性を確認してください。
ファイルがディスクナビゲーター画面に表示されない。または正しく表示されない。	• 正しい拡張子でファイル名を付けなければなりません。MP3 は「.mp3」、WMA は「.wma」、MPEG-4AAC は「.m4a」、JPEG は「.jpg」など。大文字、小文字は問いません。詳しくは「ディスクとファイルの互換性一覧」(52 ページ) をご覧ください。 • ファイル名に日本語が含まれていないか確認してください。日本語の表示には対応していません。
ファイルが再生できない。	• DRM コピープロテクト（著作権保護）のかかった WMA や MPEG-4 AAC のファイルは再生することができません。これは故障ではありません。パソコンなどで CD などの音楽データを取り込む場合、設定によっては著作権保護がかかることがあります。

TUNER関係

症状	改善策
放送が聞こえない、または聞き苦しい。	• アンテナを正しく接続して、向きや位置を調整してください。（詳しくは「システムセットアップガイド」をご覧ください）壁などに取り付ける場合は、AM 放送の受信状態が最も良い方向を見つけ、取り付け位置を決めてください。できるだけ窓の近くに置くなど、場所や向きを変えて受信しやすい状態を探してください（「アンテナを接続する」(43 ページ) をご覧ください）。 • 付属の FM 簡易アンテナは、たらしておいたり、丸めたままにしないでピンと張ってください。受信状態の良い方向が決まったら、画びょうやテープで貼り付けます。よりよい受信のためには、屋外アンテナの使用をお勧めします（「アンテナを接続する」(43 ページ) をご覧ください）。 • アンテナは、本機から離して金属物と接触しない場所に置いてください。また、パソコン、テレビなどからもできるだけ離してください。ノイズの原因となります。
オートチューニングが機能しない。	• 電波の弱い地域です。オートチューニングは電波のよい放送局のみを検出します。受信感度を上げるには、屋外アンテナを接続してください。
FM 放送がステレオなのにステレオにならない。	• 表示部のモノインジケーター（O ）が点灯していないか確認してください。「FM MODE」の設定が MONO になっていることがあります。AUTO にしてください。詳しくは、「FM 放送の雑音を減らす」（17 ページ）をご覧ください。

外部機器関係

症状	改善策
デジタルチューナーからの音が、マルチチャンネル再生にならない。	• デジタル接続されているか確認してください。市販の光ケーブルで正しく接続してください（詳しくは「他のオーディオ機器をデジタル接続する」（44 ページ）をご覧ください）。 • デジタルチューナー（またはデジタルチューナー内蔵テレビ）の音声出力設定で、MPEG-2 AAC 信号を出力するように設定してください。 • 放送がマルチチャンネル放送（5.1 ch）になっているか確認してください。ステレオ放送やモノラル放送のときは、リスニングモードを 5.1ch のモードに切り換えて、マルチチャンネル再生にしてください（詳しくは「サラウンド再生」（19 ページ）をご覧ください）。
接続した外部機器からの音が出ない。	• 正しく接続されているか、もう一度確認してください。 • **LINE ボタン**を押して、入力を切り換えてください。 • 本機が対応していないフォーマットの信号を入力していないか確認してください。対応しているフォーマットは MPEG-2 AAC、ドルビーデジタル、DTS、リニア PCM です。

症状	改善策
デュアルモノ（二カ国語）音声を再生しているのに音声が切り換わらない。	• 再生側の機器のデジタル出力設定が、リニア PCM に設定されていると、デュアルモノ音声にはなりません。ドルビーデジタルや MPEG-2 AAC などで出力してください。 • アナログ接続の時は音声を切り換えることはできません。再生側の機器とデジタル接続してください。

USB 関係

症状	改善策
USB マスストレージ機器を認識しない。	• 一度電源を切ってから、再度電源を入れてみてください。 • USB メモリーを USB 端子に正しく挿入してください。 • USB メモリーのフォーマットは FAT16、FAT32 に対応しているかご確認ください。 • USB ハブには対応しておりません。
ファイルがナビゲーター画面に表示されない。または正しく表示されない。	• 正しい拡張子でファイル名を付けなければなりません。MP3 は「.mp3」、WMA は「.wma」、MPEG-4AAC は「.m4a」、JPEG は「.jpg」など。大文字、小文字は問いません。詳しくは「ディスクとファイルの互換性一覧」(52 ページ) をご覧ください。 • USB メモリーのデータにセキュリティ（暗号化やパスワードでの保護）が施されていないか確認してください。 • USB メモリーのファイル名に日本語が含まれていないか確認してください。日本語の表示には対応していません。
ファイルが再生できない。	• DRM コピープロテクト（著作権保護）のかかった WMA や MPEG-4 AAC のファイルは再生することができません。これは故障ではありません。パソコンなどで CD などの音楽データを取り込む場合、設定によっては著作権保護がかかることがあります。

HDMI 関係

症状	改善策
接続した HDMI から音声が出ない。	• HDMI 音声出力設定が **「AUDIO ON」** になっているか確認してください。詳しくは「HDMI 音声出力設定」(46 ページ) をご覧ください。
接続した HDMI から映像が映らない。	• 本機は HDMI 機器との接続を目的として設計されています。DVI 機器との接続では正常に映像が出ない可能性があります。 • 接続した HDMI の入力切り換えを本機に合わせてください。 • お手持ちの受像機が対応していない画素に切り換えていないか確認し、HDMI 画素数を合わせてください。どうしても画像が出力されない場合は、「HDMI 出力設定の初期化」(46 ページ) を行ってください。画素数の設定が **「720 × 480P」** に戻ります。

症状	改善策
HDMI カラーを切り換えたときに、色が正しく映らない。	• モニターの入力設定を切り換えてください。 • HDMI カラーを変更前に戻してください。詳しくは「HDMI カラー」(39 ページ) をご覧ください。

ワイヤレススピーカー関係

症状	改善策
ワイヤレススピーカーの音声がとぎれる。	• 近くに同じ周波数帯（2.4 GHz）を利用する無線通信機器である、コードレスフォン、Bluetooth、無線 LAN、また電子レンジなどの機器が作動している場合は、トランスミッターのチャンネルを切り換えるか、設置場所を変えてみてください。 • 本機の使用する電波は、高い周波数を使用しているため、光と同じように直進、反射、屈折、回折、干渉などの性質を持っています。そのため、場所により電波の強弱が起こり、音声が止まったりすることがあります。設置場所を変えてみてください。 • トランスミッターとワイヤレススピーカーの距離が離れ過ぎている場合は、電波の届く範囲でご使用ください。 • 電気雑音の発生しやすいところで使用している場合は、トランスミッターのチャンネルを切り換えるか、設置場所を変えてみてください。 • 複数台の弊社のワイヤレススピーカーを同じ場所、同じチャンネルで使用していないか確認してください。同じチャンネルにならないようにチャンネルを変えてみてください。
トランスミッターから出力された音声をワイヤレススピーカーが受信できない。	• 障害物と反射物の影響で電波状態の良い位置と悪い位置があります。トランスミッターまたはワイヤレススピーカーの位置を少し動かしてみてください。 • トランスミッターとワイヤレススピーカーは対になっており、お互いに識別しています。別に購入されたトランスミッターとワイヤレススピーカーでは通信できない仕組みになっています。
トランスミッター周辺に設置されたテレビの画像が乱れることがある。	• トランスミッター周辺にアンテナが取り付けられている AV 機器がないか確認してください。トランスミッターを AV 機器のアンテナ入力端子から遠ざけてください。

エラーメッセージ

表示	意味
2CH ONLY	マルチチャンネル音声を再生中に 2 ch 音声のみ対応の機能を使用すると表示されます。
96K	88.2 kHz/96 kHz リニア PCM 信号を入力しているときに使用できない機能を使用すると表示されます。
SND.DEMO	デモモードです。詳しくは「故障かな？と思ったら」(59 ページ) の「すべてに共通」をご覧ください。

表示	意味
NOISY	サラウンドの自動設定 (MCACC) で部屋の騒音が大きいときに表示されます。
ERR MIC	サラウンドの自動設定 (MCACC) で MCACC セットアップ用マイクが接続されていないか正しく接続されていないときに表示されます。
ERR SP	サラウンドの自動設定 (MCACC) でスピーカーが接続されていないか正しく接続されていないときに表示されます。
MUTING	消音中（**消音ボタン**）に使用できない機能を使用すると表示されます。
STEREO	ラジオを聞いているときに使用できない機能を使用すると表示されます。
TRAYLOCK	ディスクテーブルがロックされています。詳しくは「故障かな？と思ったら」(59 ページ) の「すべてに共通」をご覧ください。
KEYLOCK	ボタン操作がロックされています。詳しくは「キーロック機能」(50 ページ) をご覧ください。
PHONESIN	ヘッドホンを挿入しているときに使用できない機能を使用すると表示されます。
USB ERR	「USB メモリーを再生する」(33 ページ) の「重要」をご覧ください。
EEP ERR	故障の可能性があります。お買い上げの販売店またはお近くのサービスステーションにお問い合わせください。
EXIT	メニュー画面表示中に禁止されている信号が入力されたときに表示され、通常表示に戻ります。
HDMI ERR	「故障かな？と思ったら」(64 ページ) の「HDMI 関係」または「HDMI 出力設定の初期化」（46 ページ）をご覧ください。
W.STEREO	ワイヤレスモードが **「W.STEREO」** に設定されています。詳しくは「ステレオスピーカーとして使う」（22 ページ）をご覧ください。

言語コード表を使って言語を選ぶ

「言語」(40 ページ) の設定では「言語コード表」(67 ページ) にある 136 言語の中からも選ぶことができます。

1 「その他の言語」を選びます

2 ⬆/⬇/⬅/➡ または数字ボタンを使って「言語表」または「コード」を選んで、決定ボタンを押します

言語によってはコード番号しか表示されないものもあります。

言語コード表

言語名（言語コード）, **入力コード**

Japanese (ja), **1001**
English (en), **0514**
French (fr), **0618**
German (de), **0405**
Italian (it), **0920**
Spanish (es), **0519**
Dutch (nl), **1412**
Russian (ru), **1821**
Chinese (zh), **2608**
Korean (ko), **1115**
Greek (el), **0512**
Afar (aa), **0101**
Abkhazian (ab), **0102**
Afrikaans (af), **0106**
Amharic (am), **0113**
Arabic (ar), **0118**
Assamese (as), **0119**
Aymara (ay), **0125**
Azerbaijani (az), **0126**
Bashkir (ba), **0201**
Byelorussian (be), **0205**
Bulgarian (bg), **0207**
Bihari (bh), **0208**
Bislama (bi), **0209**
Bengali (bn), **0214**
Tibetan (bo), **0215**
Breton (br), **0218**
Catalan (ca), **0301**
Corsican (co), **0315**
Czech (cs), **0319**
Welsh (cy), **0325**
Danish (da), **0401**
Bhutani (dz), **0426**
Esperanto (eo), **0515**
Estonian (et), **0520**
Basque (eu), **0521**
Persian (fa), **0601**
Finnish (fi), **0609**
Fiji (fj), **0610**
Faroese (fo), **0615**
Frisian (fy), **0625**
Irish (ga), **0701**
Scots-Gaelic (gd), **0704**
Galician (gl), **0712**
Guarani (gn), **0714**
Gujarati (gu), **0721**
Hausa (ha), **0801**
Hindi (hi), **0809**
Croatian (hr), **0818**
Hungarian (hu), **0821**
Armenian (hy), **0825**
Interlingua (ia), **0901**
Interlingue (ie), **0905**
Inupiak (ik), **0911**
Indonesian (in), **0914**
Icelandic (is), **0919**
Hebrew (iw), **0923**
Yiddish (ji), **1009**
Javanese (jw), **1023**
Georgian (ka), **1101**
Kazakh (kk), **1111**
Greenlandic (kl), **1112**
Cambodian (km), **1113**
Kannada (kn), **1114**
Kashmiri (ks), **1119**
Kurdish (ku), **1121**
Kirghiz (ky), **1125**
Latin (la), **1201**
Lingala (ln), **1214**
Laothian (lo), **1215**
Lithuanian (lt), **1220**
Latvian (lv), **1222**
Malagasy (mg), **1307**
Maori (mi), **1309**
Macedonian (mk), **1311**
Malayalam (ml), **1312**
Mongolian (mn), **1314**
Moldavian (mo), **1315**
Marathi (mr), **1318**
Malay (ms), **1319**
Maltese (mt), **1320**
Burmese (my), **1325**
Nauru (na), **1401**
Nepali (ne), **1405**
Norwegian (no), **1415**
Occitan (oc), **1503**
Oromo (om), **1513**
Oriya (or), **1518**
Panjabi (pa), **1601**
Polish (pl), **1612**
Pashto, Pushto (ps), **1619**
Portuguese (pt), **1620**
Quechua (qu), **1721**
Rhaeto-Romance (rm), **1813**
Kirundi (rn), **1814**
Romanian (ro), **1815**
Kinyarwanda (rw), **1823**
Sanskrit (sa), **1901**
Sindhi (sd), **1904**
Sangho (sg), **1907**
Serbo-Croatian (sh), **1908**
Sinhalese (si), **1909**
Slovak (sk), **1911**
Slovenian (sl), **1912**
Samoan (sm), **1913**
Shona (sn), **1914**
Somali (so), **1915**
Albanian (sq), **1917**
Serbian (sr), **1918**
Siswati (ss), **1919**
Sesotho (st), **1920**
Sundanese (su), **1921**
Swedish (sv), **1922**
Swahili (sw), **1923**
Tamil (ta), **2001**
Telugu (te), **2005**
Tajik (tg), **2007**
Thai (th), **2008**
Tigrinya (ti), **2009**
Turkmen (tk), **2011**
Tagalog (tl), **2012**
Setswana (tn), **2014**
Tonga (to), **2015**
Turkish (tr), **2018**
Tsonga (ts), **2019**
Tatar (tt), **2020**
Twi (tw), **2023**
Ukrainian (uk), **2111**
Urdu (ur), **2118**
Uzbek (uz), **2126**
Vietnamese (vi), **2209**
Volapük (vo), **2215**
Wolof (wo), **2315**
Xhosa (xh), **2408**
Yoruba (yo), **2515**
Zulu (zu), **2621**

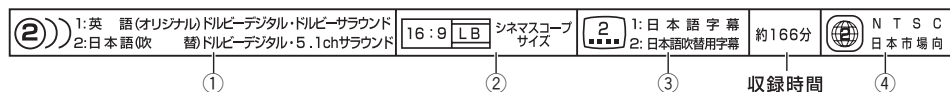
国 / 地区コード表

国名 / 地区名 , 入力コード , **国 / 地区コード**

アメリカ, 2119, us
アルゼンチン, 0118, ar
イギリス, 0702, gb
イタリア, 0920, it
インド, 0914, in
インドネシア, 0904, id
オーストラリア, 0121, au
オーストリア, 0120, at
オランダ, 1412, nl
カナダ, 0301, ca
韓国, 1118, kr
シンガポール, 1907, sg
スイス, 0308, ch
スウェーデン, 1905, se
スペイン, 0519, es
タイ, 2008, th
台湾, 2023, tw
中国, 0314, cn
チリ, 0312, cl
デンマーク, 0411, dk
ドイツ, 0405, de
日本, 1016, jp
ニュージーランド, 1426, nz
ノルウェー, 1415, no
パキスタン, 1611, pk
フィリピン, 1608, ph
フィンランド, 0609, fi
ブラジル, 0218, br
フランス, 0618, fr
ベルギー, 0205, be
ポルトガル, 1620, pt
香港, 0811, hk
マレーシア, 1325, my
メキシコ, 1324, mx
ロシア, 1821, ru

DVD のディスクジャケットについて

DVD ビデオのディスクレーベルやディスクジャケットにはいろいろなマークが表記されています。これらのマークの意味を知っておくと、そのディスクがどのように記録されているかを読みとることができます。また、そのマークによって、本機で再生中に利用できる機能も異なります。ここでは、DVD ビデオのディスクジャケットに表記されているおもなマークをご紹介します。

- **DVD ビデオ（DVD-VIDEO）のディスクジャケットの例**

① ディスクに記録されている音声の数と種類・音声トラック方式を示しています[1]（32、40 ページ）。上記の場合、英語音声はドルビーサラウンド（ドルビープロロジックサラウンド）で、日本語音声は 5.1 ch のドルビーデジタルサラウンドで再生されます。

② 再生可能なテレビ画面サイズや見えかたを示しています。このディスクの場合、16：9 の画面サイズの映像の左右が圧縮されて記録されおり、テレビの種類に合わせて本機の設定を合わせておくと、シネマスコープサイズの映像を楽しむことができます (38 ページ)。

③ ディスクに記録されている字幕の数と言語などの種類を示しています (31、40 ページ)。DVD ビデオでは最大 32 種類の字幕を記録することができます。

④ ディスクの地域番号 (リージョンナンバー) です。DVD プレーヤーと DVD ビデオディスクには、発売地域ごとに地域番号（リージョンナンバー）が設定されています。再生するディスクに記載された地域番号がプレーヤーに設定された番号を含まない場合、そのディスクを再生することはできません。本機（日本向け）の再生可能地域番号は 2 番で、ディスクに記載された地域番号が 2 番を含むか「ALL」となっている場合に再生が可能です。

その他のマーク

舞台中継やスポーツ中継などでは、複数台のカメラで撮影している場合がほとんどです。DVD ビデオでは、最大 9 つのカメラアングルで撮影された映像を同時に収録することができます。このマークが付いた DVD ビデオでは、同一場面を複数のアングルから見て楽しむことができます (32 ページ)。

DOLBY DIGITAL

ドルビー[2] デジタルとは..

DVD の標準音声タイプのことです。モノラルやステレオで記録されているソフトもあれば、現在最も主流となっている 5.1 ch サラウンドで記録されているソフトもあります。 ドルビーデジタル（5.1 ch サラウンド）で記録されているソフトとは、5 つのチャンネルの個別にそれぞれのシーンに合った音声が記録されていて、サブウーファーから出力される低音も記録されているソフトのことを言います。

メモ

1 DVD ビデオの音声タイプは、ドルビーデジタル、DTS、リニア PCM の 3 つが現在主流となっています。
2 ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic、ダブル D 記号及び AAC ロゴはドルビーラボラトリーズの商標です。

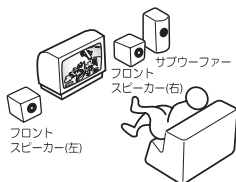
DTS[1] とは..

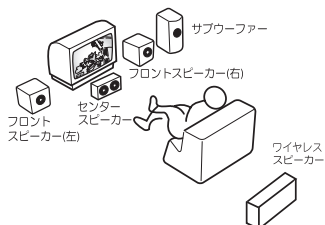
DTS とは DTS 社の 5.1 ch デジタル・サラウンド録音再生方式のことで、DVD ビデオのオプション音声タイプとして認められています。DTS デジタル・サラウンドで記録された DVD ソフトも、ドルビーデジタル (5.1 ch サラウンド) で記録されているソフトと同様に 5.1 ch で音声を楽しむことができます。

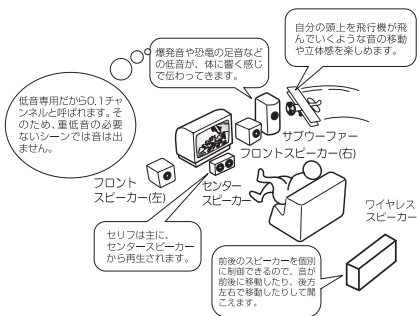
リニア PCM

音声の圧縮を行わない方式です。ミュージカルや音楽コンサートなどを収録した DVD ビデオの場合によく使われます。48 kHz/16 bit、96 kHz などの表示があることもあります。

ステレオ再生とは..

左右 2 つのスピーカーとサブウーファーから別々の音声を再生することです。DVD ビデオのステレオ音声や通常の音楽用 CD（ステレオ 2 ch で録音されています）は、5 本のスピーカーとサブウーファーが接続されていても、音はフロントスピーカーとサブウーファーからしか再生されません。

ドルビープロロジックサラウンド再生とは..

ソフトのパッケージにドルビーサラウンド (DOLBY SURROUND) と表記されているソフトを、5 本[2] のスピーカーとサブウーファーで再生することです。ただし、ワイヤレススピーカーは左右同じ音（モノラル）で再生されます。（ドルビープロロジック II の場合は、ステレオで再生されます。）

ドルビーデジタル 5.1 ch または DTS サラウンド再生とは..

ドルビーデジタル (5.1 ch サラウンド) または DTS サラウンドで記録されているソフトを、5 本[2] のスピーカーとサブウーファーから、それぞれ別々の音で再生することです。5.1 ch 独立で音声が記録されているため、立体感のある音場で臨場感あふれる音声が楽しめます。

メモ
1 “DTS”および“DTS Digital Surround”は、DTS 社の登録商標です。
2 本システムは、ワイヤレススピーカーがサラウンドスピーカー 2 本分の働きをするため 4 本です。

用語解説

アスペクト比
テレビ画面の横と縦の比率をいいます。従来サイズのテレビでは 4：3 ですが、ハイビジョンテレビやワイドテレビは 16：9 の比率となっています。臨場感あふれる映像が楽しめるようになっています。

インターレース（飛び越し走査）
映像の 1 画面を半分ずつ 2 回に分けて描きます。最初に奇数番目の走査線を描き、目の残像を利用して、次に偶数番目の走査線を描いて 1 画面 (フレーム) を表示します。従来のテレビの走査方式として採用されています。通常、解像度の数字の後ろに「i」を付けて（525 i など）表記します。

映像出力（コンポジット）
輝度信号 (Y) と色信号 (C) を混合して 1 本のコードで伝送できるようにした信号です。ただし、入力機器側で混合された輝度信号 (Y) と色信号 (C) を分離しなければなりません。この輝度信号 (Y) と色信号 (C) を分離するときの精度で画質の良さが決まります。

視聴制限
暴力シーンなどを含む DVD の中には、視聴制限のレベル（大小）が設けられたものがあります。ディスクのレベルよりも小さいレベルに本機の視聴制限レベルを設定すると、暗証番号を入力しない限り再生ができなくなります。

ダイナミックレンジ
ダイナミックレンジとは、ディスクに記録されている音声レベルの最大値と最小値の差異のことです。ダイナミックレンジは、デシベル（dB）単位で測定されます。

ダイナミックレンジを圧縮する（オーディオ DRC）と、最小の信号レベルが上がり、最大の信号レベルが下がります。これにより、破裂音のような強い音声信号が低減される一方、人の声などの低いレベルの音声信号がはっきりと聞こえるようになります。

デコード
ドルビーデジタル、DTS、MPEG-2 AAC などの圧縮されたデジタル信号を解凍して再生することです。

ドルビープロロジックサラウンド再生
2 ch サラウンド信号や 2 ch ステレオ信号をドルビープロロジック回路を通し、マルチチャンネルサラウンドで再生することです。2 ch サラウンド信号については圧縮された信号を忠実にデコード（再生）し、2 ch ステレオ信号については 2 チャンネル分の信号からセンター、サラウンドチャンネルの信号を作り出します。ただし、この再生方式ではサラウンドチャンネルはモノラルであるため、左右のサラウンドスピーカーからは同じ音声が出力されます。

ドルビープロロジック II サラウンド再生
ドルビープロロジック II は、ドルビープロロジックをさらに改良し、ステレオ音声を5.1 ch に拡張して再生するためのマトリックスデコード技術です。ステアリングロジック回路により、全可聴帯域のメイン 5 ch を作り出します。CD のような通常のステレオ音楽素材に対してもより優れた立体音場効果、包囲感、より明確な定位をもたらし、ドルビーサラウンドエンコードされた素材はディスクリート 5.1 ch に匹敵する移動感をも実現できるものです。

- **プロロジックとプロロジック II の違い**

	プロロジック	プロロジック II
効果的なソース	ドルビーサラウンドエンコード処理されたステレオ音声	すべてのステレオ音声
デコードチャンネル数	4.1 ch（サラウンドモノラル）	5.1 ch（サラウンドステレオ）
周波数特性	サラウンド7 kHz帯域制限	全チャンネルフルバンド

プレイバックコントロール（PBC）
ビデオ CD（バージョン 2.0）に記録されている、再生をコントロールするための信号です。PBC 付きビデオ CD に記録されているメニュー画面を使って、簡単な対話形式のディスクや検索機能のあるディスクの再生が楽しめます。また、高 / 標準解像度の静止画も楽しむことができます。

プログレッシブ (順次走査)

映像の 1 画面を 2 回に分けずに 1 画面ずつ描きます。特に静止画の文字やグラフィックス、横線などの多い画像で、チラツキを抑えた美しい画像がご覧になれます。通常、解像度の数字の後ろに「p」を付けて（525 p など）表記します。

マルチアングル

通常のテレビ番組などはテレビカメラからの映像を見ていますので、画像は撮影しているカメラの位置の視点でテレビ画面に表示されます。テレビスタジオなどでは数台のカメラで同時に撮影した映像の 1 つを番組ディレクターが選んで電波にのせて各家庭のテレビに送っていますので、視聴者側で視点 (カメラ) を選ぶことはできません。DVD ビデオには同時に複数のカメラで撮影したすべての映像が記録されているものがあり、プレーヤー側で自由に選ぶことができます。DVD ビデオではアングルを最大 9 つまで記録することができます。

マルチ音声言語

DVD ビデオの中には、1 枚のディスクの中に複数の音声を持っているものがあります。DVD ビデオでは音声を最大 8 言語 (8 ストリーム) まで記録することができ、その中からお好きな言語を選んで楽しめる機能です。

マルチ字幕言語（サブタイトル）

映画などでおなじみの字幕の言語です。DVD ビデオでは字幕の言語を最大 32 カ国語まで記録することができ、その中からお好きな言語を選んで楽しめる機能です。

マルチセッション

CD-R や CD-RW にデータを記録するとき、その記録の始めから記録の終わりまでをひとまとめにした単位をセッションといいます。マルチセッションとは、1 枚の CD-R/RW ディスクに 2 つ以上のセッションデータを記録する方法のことです。

マルチボーダー

DVD-R や DVD-RW にデータを記録するとき、その記録の始めから記録の終わりまでをひとまとめにした単位をボーダーといいます。マルチボーダーとは、1 枚の DVD-R/RW ディスクに 2 つ以上のボーダーデータを記録する方法のことです。

マルチチャンネルサラウンド再生

3 本以上のスピーカーでサラウンド再生することです。音声信号が 3 チャンネル以上の録音方式で記録されているソフトについてはソフトに忠実に再生します。なかでも 5.1 ch サラウンド信号の再生については、左右のサラウンドスピーカーからもそれぞれ異なる音声が出力されるので、ドルビープロロジックサラウンド再生に比べ、より立体感のある音場で迫力のある臨場感がお楽しみいただけます。

リージョン No.

DVD プレーヤーと DVD ビデオディスクは発売地域ごとに地域番号（リージョン No.）が設けられており、再生するディスクに記載されている番号にプレーヤーの地域番号が含まれていない場合は再生できません。本機のリージョン No. は「2」です（本体後面部に表記されています）。

D 端子

デジタル放送に対応したテレビなどの機器に装備されている映像信号（Y、C_B/P_B、C_R/P_R）と映像信号のフォーマットを識別する制御信号を 1 つのコネクタで接続する端子です。

DVD ビデオフォーマット記録

、または マークの付いている市販の DVD ビデオディスクと同じ方式 (フォーマット) で DVD-R/RW/R DL（2 層ディスク）ディスクに一筆書きのように記録することをいいます。

パイオニアの DVD レコーダーではこれをビデオモード記録といいます。ビデオモードには、高画質に録画するモードと、長時間録画するモードがあります。

Exif

Exchangeable Image File Format の略でエグジフと読みます。富士フイルム株式会社が開発したデジタルスチールカメラ用のファイルフォーマットです (JEIDA 規格)。撮影日などの撮影や画像に関する情報とサムネイル画像が収録できるように拡張されているファイルフォーマットです。

GUI
Graphical User Interface の略です。画面にメニューを表示し、それを操作することでより使いやすい環境を提供します。

JPEG
JPEG とは、ITU-TS（国際電気通信連合 : 旧 CCITT）と ISO（国際標準化機構）で定められた、写真やイラストなどの画像ファイルを保存する形式（画像フォーマット）のひとつです。JPEG 形式の画像ファイルには「.jpg」という拡張子が付きます。デジタルカメラで撮った写真などもほとんど JPEG 形式で保存されています。

MP3
MP3 とは、MPEG1 オーディオレイヤー 3 というファイル形式で圧縮した音楽データです。「.mp3」という拡張子の付いたファイルを MP3 ファイルと呼びます。拡張子とは、OS やアプリケーションソフトで管理されているファイルの種類を表す文字符号です。ピリオドと 3 文字のアルファベットで構成されています。

MPEG
Moving Picture Experts Group の略でエムペグと読みます。これは動画音声圧縮方法の国際標準です。

DVD ビデオの映像やビデオ CD の映像 / 音声は、この方式で記録されています。DVD ビデオの中には、この方式でデジタル音声を圧縮して記録しているものもあります。

PCM
Pulse Code Modulation の略で、圧縮していない 2 チャンネルステレオデジタル音声です。CD のデジタル音声はほとんどこの方式です。DVD の音声記録方式のひとつでもありますが、CD のサンプリング周波数が 44.1 kHz であるのに対し、DVD のサンプリング周波数は 48 kHz や 96 kHz と高いので、DVD の方がより高音質の音声を楽しめます。

VR モード（ビデオレコーディングフォーマット）記録
映像、および音声信号を DVD レコーダーで DVD-R/RW ディスクの不特定な位置に即時書き込み * することをいいます。（* 即時書き込み＝パソコンでは、入力されたデータをすぐにハードディスク (リムーバブルメディア) に書き込まず、一度メモリーに記憶します。その後、CPU（OS）が順番を整理してハードディスクに書き込みます。これに対して、データが入力された順にハードディスクに書き込んでいくことを即時書き込みといいます。）

パイオニアの DVD レコーダーではこれを VR モード記録といいます。VR モードには、標準的な画質で録画するモードと、画質および録画時間を自由に設定して録画するモードがあります。

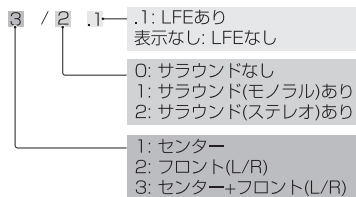
3/2.1CH
3/2.1 はディスクに記録されているチャンネル数を表しています。

例）5.1CH の場合

- フロントチャンネル [L(1CH)/R(1CH)]
- センターチャンネル [(1CH)]
- サラウンドチャンネル [L(1CH)/R(1CH)]
- LFE*1 チャンネル
  [1CH × 0.1*2 = 0.1CH]

*1 ：重低音強調効果の意

*2 ：音声全体に対して低音が占める割合

GUI 画面には下記のように表示されます。

仕様

DVD/CDレシーバー部 (XV-DV565)

■ アンプ部

実用最大出力(JEITA)
フロント、センター、サラウンド
（1 kHz、10 %、4 Ω）....................60 W / CH
サブウーファー（100 Hz、10 %、4 Ω）
....60 W

■ DVD部（音声）

周波数特性
48 kHz サンプリング.........4 Hz ～ 22 kHz
96 kHz サンプリング.........4 Hz ～ 44 kHz
ワウ・フラッター...............................測定限界以下
（±0.001 % W.PEAK)

■ DVD部（映像）

映像出力
出力レベル..........1 Vp-p（75 Ω 負荷時、同期負）
出力端子.. RCA 端子
S2 映像出力
映像Y 出力レベル........................1 Vp-p（75 Ω）
映像C 出力レベル.............. 286 mVp-p（75 Ω）
出力端子..S 端子
D1/D2 映像出力（Y、CB/PB、CR/PR)
映像Y 出力レベル........................1 Vp-p（75 Ω）
映像CB/PB、CR/PR 出力レベル
....0.7 Vp-p（75 Ω）
出力端子..D 端子
HDMI 出力
出力端子... 19 ピン

■ チューナー部

FMチューナー部
受信周波数.................. 76.0 MHz ～90.0 MHz
アンテナ....................................... 75 Ω 不平衡型
AMチューナー部
受信周波数.................... 522 kHz ～ 1629 kHz
アンテナ.......................................ループアンテナ

■ 電源部

電源電圧.....................AC100 V、50 Hz/60 Hz
消費電力..45 W
スタンバイ消費電力..................................0.25 W

■ その他

外形寸法...........420 mm X 60 mm X 332 mm
（幅）X（高さ）X（奥行）
質量 3.1 kg
許容動作温度＋ 5 ℃～＋ 35 ℃
許容動作湿度 5 %～ 85 %(結露のないこと)

スピーカーシステム部 (S-DV565)

■ フロントスピーカー

型式密閉式ブックシェルフ型
防磁設計（JEITA）
使用スピーカーフルレンジ 7.7 cm（コーン型）
公称インピーダンス 4 Ω
再生周波数帯域 80 Hz～ 20 000 Hz
最大入力 60 W（JEITA）
外形寸法 100 mm X 100 mm X 100 mm
（幅）X（高さ）X（奥行）
質量 0.54 kg

■ センタースピーカー

型式密閉式ブックシェルフ型
防磁設計（JEITA）
使用スピーカーフルレンジ 7.7 cm（コーン型）
公称インピーダンス 4 Ω
再生周波数帯域 75 Hz～ 20 000 Hz
最大入力 60 W（JEITA）
外形寸法 220 mm X 90 mm X 100 mm
（幅）X（高さ）X（奥行）
質量 0.70 kg

■ サブウーファー

型式バスレフ式フロア型
使用スピーカーウーファー 16 cm（コーン型）
公称インピーダンス 4 Ω
再生周波数帯域 30 Hz～ 2500 Hz
最大入力 60 W（JEITA）
外形寸法 221 mm X 401.5 mm X 390 mm
（幅）X（高さ）X（奥行）
質量 5.5 kg

ワイヤレススピーカーシステム部 (XW-1)

■ ワイヤレススピーカー

電源 AC 100 V、50 Hz/60 Hz
消費電力 30 W
アンプ
実用最大出力(JEITA) 10 W/ch
(1 kHz, THD 10 %, 4 Ω)
スピーカーユニット 7 cm（コーン型）X 2
質量 2.9 kg
外形寸法
..................461.5 mm X 176.5 mm X 95 mm
（幅）X（高さ）X（奥行）

■ トランスミッター

AC アダプター
電源........................AC 100 V、50 Hz/60 Hz
定格..9 VA
定格出力...............................DC12 V/300 mA
消費電力（本体のみ）...2 W
入力 ....RCA ジャック
質量 ....0.3 kg
外形寸法........... 166 mm X 56 mm X 112 mm
（幅）X（高さ）X（奥行）

付属品

■ DVD/CD レシーバー部

リモコン... 1
AM ループアンテナ 1
FM 簡易アンテナ.. 1
ビデオコード （1.5 m）..1
単 3 形乾電池※（AA/R6）※動作確認用 2
MCACC セットアップ用マイク 1
電源コード.. 1
保証書 1
取扱説明書
本編（本書）
システムセットアップガイド

■ スピーカー部

スピーカーコード
（4 m / フロントスピーカー用）..........................2
（4 m / センタースピーカー用）.......................... 1
（4 m / サブウーファー用)................................ 1
滑り止めパッド（小）..8
滑り止めパッド（大）..4

■ ワイヤレススピーカー部

オーディオコード... 1
AC アダプター..1
電源コード.. 1
コーションラベル... 1

- 仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

本機は一般家庭用機器として作られたものです。一般家庭用以外（たとえば飲食店等での営業用の長時間使用、車輛、船舶への搭載使用）で使用し、故障した場合は、保証期間内でも有償修理を承ります。

DRM（Digital Rights Management）コピープロテクトは著作権保護のための技術で、無許可の複製を防止するため録音時に使用した PC などの機器以外での再生を制限するなどの機能です。詳しくは、録音に使用した機器・アプリケーションの取扱説明書やヘルプなどをご覧ください。

音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣近所への思いやりを十分にいたしましょう。ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。
特に静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には気を配りましょう。近所へ音が漏れないように窓を閉めたり、ヘッドホンで聞くのも 1 つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

結露について

冬期などに本機を寒いところから暖かい室内に持ち込んだり、本機を設置した部屋の温度を暖房などで急に上げたりすると、内部 (動作部やレンズ) に水滴が付きます (結露)。結露したままでは本機は正常に動作せず、再生ができません。結露の状態にもよりますが、本機の電源を入れて 1 ～ 2 時間放置し、本機の温度を室温に保てば水滴が消え、再生できるようになります。夏でもエアコンなどの風が、本機に直接あたると結露が起こることがあります。その場合は本機の設置場所を変えてください。

製品のお手入れについて

- 本体は通常、柔らかい布でから拭きしてください。汚れがひどい場合は水で５～６倍に薄めた中性洗剤に柔らかい布を浸してよく絞り、汚れを拭き取ったあと乾いた布で拭いてください。
- アルコール、シンナー、ベンジン、殺虫剤などが付着すると印刷、塗装などがはげることがありますのでご注意ください。また、ゴムやビニール製品を長時間触れさせることも、キャビネットを傷めますので避けてください。
- 化学ぞうきんなどをお使いの場合は、化学ぞうきんなどに添付の注意事項をよくお読みください。

お手入れの際は、電源プラグをコンセントから抜いてください。

本製品は家庭用オーディオ機器（オーディオ・ビデオ機器）です。下記の注意事項を守ってご使用ください。

1. 一般家庭用以外での使用（例：店舗などにおけるBGMを目的とした長時間使用、車両・船舶への搭載、屋外での使用など）はしないでください。
2. 音楽信号の再生を目的として設計されていますので、測定器の信号（連続波）などの増幅用には使用しないでください。
3. ハウリングで製品が故障する恐れがありますので、マイクロフォンを接続する場合はマイクロフォンをスピーカーに向けたり、音が歪むような大音量では使用しないでください。
4. スピーカーの許容入力を超えるような大音量で再生しないでください。

S26_Ja

保証とアフターサービス

保証書（別添）
保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

保証期間はご購入日から 1 年間です。

補修用性能部品の保有期間
当社は、この製品の補修用性能部品を製造打ち切り後 8 年間保有しています。性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご質問、ご相談
お買い求めの販売店へご相談・ご依頼ください。

修理を依頼されるとき
修理を依頼される前に取扱説明書の「故障かな？と思ったら」の項目をご確認ください。それでも異常のあるときは、必ず電源プラグを抜いてから、販売店へご依頼ください。ご転居されたり、ご贈答品などで、お買い求めの販売店に修理のご依頼ができない場合は、裏表紙の「ご相談窓口のご案内」・「修理窓口のご案内」をご覧になり、修理受付センターにご相談ください。

トランスミッターまたはワイヤレススピーカーの修理を依頼されるときは、トランスミッターとワイヤレススピーカーを 2 つ 1 組としてご依頼ください。

■ 連絡していただきたい内容
- ご住所
- お名前
- お電話番号
- 製品名：DVD 5.1 ch サラウンドシステム
- 型番：HTZ-565DV
- お買い上げ日
- 故障または異常の内容（できるだけ詳しく）
- 訪問ご希望日
- ご自宅までの道順と目標（建物や公園など）

■ 保証期間中は：
修理に際しては、保証書をご提示ください。保証書に記載されている弊社の保証規定に基づき修理いたします。

■ 保証期間が過ぎているときは：
修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

本機では、画面表示に NEC のフォント「Font Avenue」を使用しています。Font Avenue は NEC の登録商標です。

長年ご使用のオーディオ製品の点検をおすすめいたします。こんな症状はありませんか？
・電源コードや電源プラグが異常に熱くなる。
・電源コードにさけめやひび割れがある。
・電気が入ったり切れたりする。
・本体から異常な音、熱、臭いがする。

故障や事故防止のためすぐに使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜き、「保証とアフターサービス」（上記）をお読みのうえ、修理受付センター（裏表紙）に点検をご依頼ください。

サービスステーションリスト

サービス拠点への電話は、修理受付センターでお受けします。（沖縄県の方は沖縄サービスステーション）
また、認定店は不在の場合もございますので、持ち込みをご希望のお客様は修理受付センターにご確認ください。

●北海道地区

受付 月～金 9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付 9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

拠点	FAX	〒	住所
☆札幌サービスセンター	FAX 011-611-5694	〒064-0822	札幌市中央区北2条西20-1-3 クワザワビル
旭川サービス認定店	FAX 0166-55-7207	〒070-0831	旭川市旭町1条1丁目438-89
帯広サービス認定店	FAX 0155-23-7757	〒080-0015	帯広市西5条南28丁目1-1
函館サービス認定店	FAX 0138-40-6473	〒041-0811	函館市富岡町2-18-7

●東北地区

受付 月～金 9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付 9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

拠点	FAX	〒	住所
☆仙台サービスセンター	FAX 022-375-4996	〒981-3121	仙台市泉区上谷刈6-10-26
山形サービス認定店	FAX 023-615-1627	〒990-0023	山形市松波1-8-17
郡山サービス認定店	FAX 024-991-7466	〒963-8861	郡山市鶴見坦1-9-25 クレールアヴェニュー伊藤第2ビル1F D号
盛岡サービス認定店	FAX 019-659-1895	〒020-0051	盛岡市下太田下川原153-1
青森サービス認定店	FAX 017-735-2438	〒030-0821	青森市勝田2-16-10
八戸サービス認定店	FAX 0178-44-3351	〒031-0802	八戸市小中野4-3-34
秋田サービス認定店	FAX 018-869-7401	〒010-0802	秋田市外旭川字梶の目346-1

●東京都内

受付 月～土 9:30～18:00（日・祝・弊社休業日は除く）

拠点	FAX	〒	住所
世田谷サービスステーション	FAX 03-3419-4234	〒155-0032	世田谷区代沢4-25-9
北東京サービスステーション	FAX 03-3944-7800	〒170-0002	豊島区巣鴨1-9-4 第三久保ビル1F
多摩サービスステーション	FAX 042-524-5947	〒190-0003	立川市栄町4-18-1 エクセル立川1F

●関東・甲信越地区

受付 月～金 9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付 9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

拠点	FAX	〒	住所
新潟サービス認定店	FAX 025-241-1879	〒950-0913	新潟市鐙1-5-23
佐渡サービス指定店 横山電機商会	FAX 0259-63-3400	〒952-1209	佐渡市金井町千種1158-1
☆千葉サービスセンター	FAX 043-207-2555	〒263-0014	千葉市稲毛区作草部町1369-1 椎の実ハイツ1F
松戸サービス認定店	FAX 047-340-5052	〒270-0021	松戸市小金原4-9-23
水戸サービス認定店	FAX 029-248-1306	〒310-0844	水戸市住吉町307-4
つくばサービス認定店	FAX 0298-58-1369	〒305-0045	つくば市梅園2-2-6
☆埼玉サービスセンター	FAX 048-651-8030	〒331-0812	さいたま市北区宮原町1-310-1
川越サービス認定店	FAX 049-233-6581	〒350-0804	川越市下広谷1128-11
宇都宮サービス認定店	FAX 028-657-5882	〒321-0912	宇都宮市石井町3373-1
群馬サービス認定店	FAX 0270-22-1859	〒372-0801	伊勢崎市宮子町1191-17 パサージュ808伊勢崎101号
☆神奈川サービスセンター	FAX 045-943-3788	〒224-0037	横浜市都筑区茅ヶ崎南2-18-1 ベルデユール茅ヶ崎
横浜北サービス認定店	FAX 045-943-3155	〒224-0036	横浜市都筑区勝田南1-19-17
神奈川西サービス認定店	FAX 046-231-1209	〒243-0422	海老名市中新田4-10-53 中山ビル1F
三宅島サービス指定店 勝見電機	FAX 04994-6-1246	〒100-1211	三宅村大字坪田
松本サービス認定店	FAX 0263-48-0575	〒390-0852	松本市大字島立180-5 パイオニア松本拠点1F
長野サービス認定店	FAX 026-229-5250	〒380-0935	長野市中御所1-24
甲府サービス認定店	FAX 055-228-8003	〒400-0035	甲府市飯田4-9-14

●中部地区

受付 月～金 9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付 9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

拠点	FAX	〒	住所
☆名古屋サービスセンター	FAX 052-532-1148	〒451-0063	名古屋市西区押切2-8-18
岡崎サービス認定店	FAX 0564-33-7080	〒444-0931	岡崎市大和町字荒田36-1 大和ビレッジB-1
津サービス認定店	FAX 059-213-6712	〒514-0821	津市垂水522-5
岐阜サービス認定店	FAX 058-274-5256	〒500-8356	岐阜市六条江東1-1-3
静岡サービス認定店	FAX 054-237-5691	〒422-8034	静岡市駿河区高松1-6-5
沼津サービス認定店	FAX 055-967-8455	〒410-0876	沼津市北今沢12-7
浜松サービス認定店	FAX 053-422-1401	〒435-0042	浜松市篠ヶ瀬町415 ビラモデルナ5号
金沢サービス認定店	FAX 076-240-0550	〒920-0362	金沢市古府3-60-1 K2ビル1F
富山サービス認定店	FAX 076-425-3027	〒939-8211	富山市二口町1-7-1
福井サービス認定店	FAX 0776-27-1768	〒910-0001	福井市大願寺3-5-9

●関西地区			受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く） ☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）
☆大阪サービスセンター	FAX　06-6310-9120	〒564-0052	吹田市広芝町5-8
大阪北サービス認定店	FAX　06-6453-5666	〒531-0076	大阪市北区大淀中3-9-4
大阪南サービス認定店	FAX　0722-75-2625	〒593-8322	堺市西区津久野町1-8-15　ローズマンション1F
神戸サービス認定店	FAX　078-265-0832	〒651-0093	神戸市中央区二宮町1丁目10-1　ローレル三宮ノースアベニュー1F
姫路サービス認定店	FAX　0792-51-2656	〒671-0224	姫路市別所町佐土4-2
和歌山サービス認定店	FAX　0734-46-3026	〒641-0021	和歌山市和歌浦東3-1-25
京都サービス認定店	FAX　075-352-2588	〒600-8322	京都市下京区西洞院通五条東南角小柳町513-2　五条久保田ビル1F
奈良サービス認定店	FAX　0742-36-8713	〒630-8132	奈良市大森西町21-26
福知山サービス認定店	FAX　0773-24-5375	〒620-0055	福知山市篠尾新町2-74　カマハチマンション

●中国・四国地区			受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く） ☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）
☆広島サービスセンター	FAX　082-248-9939	〒730-0041	広島市中区小町2-30　第二有楽ビル1F
岡山サービス認定店	FAX　086-244-8748	〒700-0975	岡山市今8-15-21
松江サービス認定店	FAX　0852-22-7779	〒690-0017	松江市西津田4-5-40　（有）テクピット内
福山サービス認定店	FAX　0849-31-2791	〒720-0815	福山市野上町3-12-9
鳥取サービス認定店	FAX　0857-29-1290	〒680-0061	鳥取市立川町5-240-1
徳山サービス認定店	FAX　0834-33-5759	〒745-0006	周南市花畠町3-11　森広事務所1F
高松サービスステーション	FAX　087-861-4841	〒760-0078	高松市今里町1-16-1
徳島サービス認定店	FAX　088-669-6076	〒770-8023	徳島市勝占町中須92-1　大松ジョリカ地下1階103号
高知サービス認定店	FAX　088-802-3321	〒780-0051	高知市愛宕町3-12-13　晃栄ビル1F
松山サービス認定店	FAX　089-951-6270	〒791-8067	松山市古三津5-10-35　商船ビル1F

●九州地区			受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く） ☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）
☆福岡サービスセンター	FAX　092-412-7460	〒812-0016	福岡市博多区博多駅南2-12-3
北九州サービス認定店	FAX　093-941-8354	〒802-0044	北九州市小倉北区熊本1丁目9-4　植田ビル1F
博多サービス認定店	FAX　092-461-1643	〒812-0006	福岡市博多区上牟田2-6-7
長崎サービス認定店	FAX　095-849-4606	〒852-8145	長崎市昭和1丁目12-10　クリスタルハイツ平野
熊本サービス認定店	FAX　096-331-3323	〒862-0918	熊本市花立5丁目14-17
大分サービス認定店	FAX　097-551-2049	〒870-0921	大分市萩原3-23-15　日商ビル101
鹿児島サービスステーション	FAX　099-224-7692	〒892-0841	鹿児島市照国町3-21　第二大見ビル2F
宮崎サービス認定店	FAX　0985-27-3136	〒880-0821	宮崎市浮城町98-1

●沖縄県			受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
沖縄サービスステーション	TEL　098-879-1910 FAX　098-879-1352	〒901-2122	浦添市勢理客4-18-1　トヨタマイカーセンター3F

平成19年2月現在　　記載内容は、予告なく変更させていただくことがありますので予めご了承ください。

この機器の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）及び特定小電力無線局（免許を要さない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、すみやかに使用周波数を変更するか又は電波の発射を停止したうえ、下記連絡先にご連絡いただき、混信回避のための処置など（例えば、パーティションの設置など）についてご相談してください。
3. その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、次の連絡先へお問い合わせください。

連絡先）カスタマーサポートセンター：フリーフォン 0070-800-8181-22

http://pioneer.jp/support/

<各窓口へのお問い合わせの時のご注意>
市外局番「0070」で始まるフリーフォン及び「0120」で始まるフリーダイヤルは、PHS、携帯電話などからは、ご使用になれません。
また、【一般電話】は、携帯電話・PHSなどからご利用可能ですが、通話料がかかります。

ご相談窓口のご案内

パイオニア商品の修理・お取り扱い（取り付け・組み合わせなど）については、お買い求めの販売店様へお問い合わせください。

商品についてのご相談窓口

● 商品のご購入や取り扱い、故障かどうかのご相談窓口およびカタログのご請求について

カスタマーサポートセンター（全国共通フリーフォン）

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00、土曜・日曜・祝日9:30～12:00、13:00～17:00（弊社休業日は除く）

●家庭用オーディオ/ビジュアル商品　■0070−800−8181−22　■一般電話　03−5496−2986

■ファックス　03−3490−5718

■インターネットホームページ　http://pioneer.jp/support/
※商品についてよくあるお問い合わせ・メールマガジン登録のご案内・お客様登録など

修理窓口のご案内

修理をご依頼される場合は、取扱説明書の『故障かな？と思ったら』を一度ご覧になり、故障かどうかご確認ください。それでも正常に動作しない場合は、①型名②ご購入日③故障症状を具体的に、ご連絡ください。

修理についてのご相談窓口

● お買い求めの販売店に修理の依頼が出来ない場合

修理受付センター

受付時間　月曜～金曜9:30～19:00、土曜・日曜・祝日9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

■電話　0120−5−81028（ゴーバイオニア）　■一般電話　03−5496−2023

■ファックス　0120−5−81029

■インターネットホームページ　http://pioneer.jp/support/repair.html
※インターネットによる修理受付対象商品は、家庭用オーディオ/ビジュアル商品に限ります

沖縄サービスステーション（沖縄県のみ）

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00（土曜・日曜・祝日・弊社休業日は除く）

■一般電話　098−879−1910

■ファックス　098−879−1352

部品のご購入についてのご相談窓口

● 部品（付属品、リモコン、取扱説明書など）のご購入について

部品受注センター

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00、土曜・日曜・祝日9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

■電話　0120−5−81095　■一般電話　0538−43−1161

■ファックス　0120−5−81096

平成19年2月現在　記載内容は、予告なく変更させていただくことがありますので予めご了承ください。　VOL.022

パイオニア株式会社　〒153-8654 東京都目黒区目黒1丁目4番1号

<XRA3042-B>